

横浜市市民活動支援センター自主事業

# 2016

コミュニティカフェ

**カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及**

# Report

横浜コミュニティカフェ  
ネットワーク



横浜市  
市民局

## もくじ

団体紹介	2
事業紹介	4
事業 1：事例検討会	6
参考資料	13
コラム	14
事業 2：個別伴走会議	16
事業 3：訪問調査	26
事業 4：公開フォーラム	35
コミュニティカフェ紹介	36

## 「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」

### 2016 年度中間報告書について

この冊子は、横浜コミュニティカフェネットワークが 2015(H27) 年度～2017(H29) 年度の 3 か年で計画している「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」事業の中間報告書第 2 号である。本事業は、横浜市市民局の協働事業である、横浜市市民活動支援センター自主事業として取組みを行っています。本誌に掲載した記録は、最終年度制作する報告書・啓発冊子の素材として活用する予定です。

# YCCN について

## 団体紹介～横浜コミュニティカフェネットワーク (YCCN)

### ねらい

コミュニティカフェ運営者同士のつながりのきっかけづくりや、関係を深めることなど、地域課題解決に取り組むための、地域との関係づくりを行う中間支援機能を高めるためのノウハウを可視化し、共有する学び合いや相互支援を目指します。

### 活動・事業

#### ●交流事業

コミュニティカフェ運営者同士のつながりのきっかけづくりや、関係を深めるために、交流会やメーリングリストの設置、フォーラム等の開催を行います。

#### ●学び事業

コミュニティカフェの運営や中間支援機能を高めるためのノウハウを可視化し、共有する学び合いや支援事業を行います。

#### ●情報発信

コミュニティカフェの啓発や情報共有を行います。

H27(2015)年度からは、横浜市市民活動支援センター自主事業として、カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及に取り組んでいます

横浜  
コミュニティカフェ  
ネットワーク

## 横浜 コミュニティカフェ ネットワーク

ねらい  
コミュニティカフェ運営者同士のつながりのきっかけづくりや、関係を深めることや、地域課題解決に取り組むための、地域との関係づくりを行う中間支援機能を高めるためのノウハウを可視化し、共有する学び合いや相互支援を目指します。

活動事業  
●交流事業 コミュニティカフェ運営者同士のつながりのきっかけづくりや、関係を深めるために、交流会やメーリングリストの設置、フォーラム等の開催を行います。  
●学び事業 コミュニティカフェの運営や中間支援機能を高めるためのノウハウを可視化し、共有する学び合いや支援事業を行います。  
●情報発信 コミュニティカフェの啓発や情報共有を行います。

H27(2015)年度は、横浜市市民活動支援センター自主事業として、カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及に取り組んでいます

横浜コミュニティカフェネットワークが生まれたワケ  
これまでの、横浜市内でのコミュニティカフェの運営や運営のサポートなどから生まれたネットワーク、現場からのこうした声から活動が始まりました。

- 地域交流拠点ワーキンググループ (2009年9月～11月) 市内のコミュニティカフェの成功事例や課題を実践者・関係者らで分析検討【計40回開催/延べ約300名参加】
- コミュニティカフェノウハウ移転事業(インスオン支援・フォーラム) (2010年11月) 全国各地へのノウハウ移転事業を実施【12箇所】成果を共有するためのフォーラムを開催【12名参加】
- コミュニティカフェフォーラム (2013年11月) 横浜市内のコミュニティカフェ実践者らが集い、地域ニーズや課題、事業化支援やネットワーク化、中間支援機能の必要性を検討【14名】
- コミュニティカフェ相談対応 関係機関やアドバイザー、講師など、コミュニティカフェの事業化や地域との関係づくり、行政との協働などのテーマでの相談やアドバイスを実施【2007年～約35名へのサポート】

活動の内容  
交流 学び合い  
情報発信 つながりづくり

横浜コミュニティカフェネットワーク <http://yokohama-ccn.jimdo.com/>  
〒234-0054 横浜市中区港南台4-17-22 キタミビル2F港南台タウンカフェ内 yokohama.ccn@gmail.com

### YCCNメンバー紹介

【団体会員】  
●スベスナナ  
●はまなま(NOKA)  
●いこいの家夢みん (松本 和子)  
●大倉山おへそ (望月 哲代)  
●港南台タウンカフェ (原藤 保)  
●まきまカフェ (森 花美子)  
●さくら茶屋にししば (岡本 滋子)  
●3丁目カフェ (大野 承)  
●シェアラーカフェ (若宮 晶子)

●Happy Square (池田 正則)  
●ハートフル・ボート (五味 真純)  
●らららステーションドリーム(藤津 穂子)  
●街カフェ大倉山ミエル (鈴木 智香子)

【個人会員】 (コミュニティカフェ館長区副館長)  
神道 敏利 (コミュニティカフェ館長区副館長)  
名和田 雄彦 (まちづくりフォーラム港南)  
三輪 律江 (UDCN 並木ラボ)  
米田 佐知子 (まちづくりフォーラム港南)

2014.02.18(日)

### 横浜コミュニティカフェって?

ねらい  
コミュニティカフェ運営者同士のつながりのきっかけづくりや、関係を深めることや、地域課題解決に取り組むための、地域との関係づくりを行う中間支援機能を高めるためのノウハウを可視化し、共有する学び合いや相互支援を目指します。

活動事業  
●交流事業 コミュニティカフェ運営者同士のつながりのきっかけづくりや、関係を深めるために、交流会やメーリングリストの設置、フォーラム等の開催を行います。  
●学び事業 コミュニティカフェの運営や中間支援機能を高めるためのノウハウを可視化し、共有する学び合いや支援事業を行います。  
●情報発信 コミュニティカフェの啓発や情報共有を行います。

H27(2015)年度は、横浜市市民活動支援センター自主事業として、カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及に取り組んでいます

### 入会のご案内

- 対象 横浜市内で、コミュニティカフェの運営や実践をされている方や関心のある個人・団体
- 会費 個人会員 3,000円  
団体会員 3,000円

メール・FAXなどでご連絡下さい。別途詳細をご案内いたします。

メンバー  
随時  
募集中!

つながりづくり×3タイプ  
横浜コミュニティカフェネットワーク  
〒234-0054 横浜市中区港南台4-17-22 キタミビル2F港南台タウンカフェ内  
TEL:045-821-8105 FAX:045-821-8104  
担当: 若宮・米田 yokohama.ccn@gmail.com

<http://yokohama-ccn.jimdo.com/>

# カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及事業について

## ■趣旨・目的

### 【背景】

・市内各区では、区民活動支援センター・区社会福祉協議会・地区センター・地域ケアプラザ・コミュニティハウスなどの施設が、団体や住民の活動拠点となっている。

・この10年ほどの間に「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が市内に次々生まれている。飲食を伴わないカフェ的な場も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様だ。

・「目的を持たなくても利用できる」カフェは敷居を低く、多様な利用者に、居場所や情報、地域での役割（出番）も提供している。また、団体の運営支援やネットワークづくり、連携のコーディネート等、中間支援機能を果たす要素を内在している。

・市内に早期に開設されたカフェでは、エリアマネジメント、ネットワークづくり、団体運営相談等、既に中間支援役割を果たし始めている。この数年は、横浜市まち普請事業を活用し地域づくりを意識して開設するカフェ等も増えて、そうした中間支援志向のカフェに、支援機能の強化ニーズが出てきている。

### 【事業の目的】

・本事業では、カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを確かめ、「市内のコミュニティカフェが中間支援組織として力をつけるための支援」と「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援力の向上」の両方を目指す。

・また併せて、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動支援センターを初めとする区域の中間支援組織や活動拠点との連携のあり方も考える。

## ■事業内容

### （事業実施地域）

横浜市域（小地域をベースとしたモデル事例5か所程度と、中間支援機能を志向するコミュニティカフェが運営されているエリア）

### （事業の対象者）

横浜市内で運営されているコミュニティカフェと、当該カフェが立地する地域住民、地域活動団体等、まちづくりの多様な主体

#### 1. 事例検討会（H27年）

既に中間支援機能を果たすコミュニティカフェの事例から、成功要因やその機能を把握し、カフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき力量を整理する。

#### 2. カフェ支援会議（H27年・H28年）

中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援機能を持ち得ている先行取組カフェの関係者が伴走支援を行う。個別カフェの支援機能強化・先行取組カフェの力量向上と同時に、伴走支援を通じて横浜コミュニティカフェネットワークの支援力向上も図る。また、小地域での中間支援機能強化を進めるために、カフェ単独でなく地域のステークホルダーと連携協力して体制構築する可能性を模索する。

#### 3. 公開フォーラム開催（H27年・H28年）

「事例検討会」と「カフェ伴走会議」で把握された成果について報告共有の場をつくり、コミュニティカフェの中間支援機能に関する理解と、関心層を広げる。

#### 4. 訪問調査（H27年、H28年）

横浜市内のカフェがどのように中間支援役割を果たしているのか、地域での連携の可能性、課題やニーズ等を、訪問し把握する。

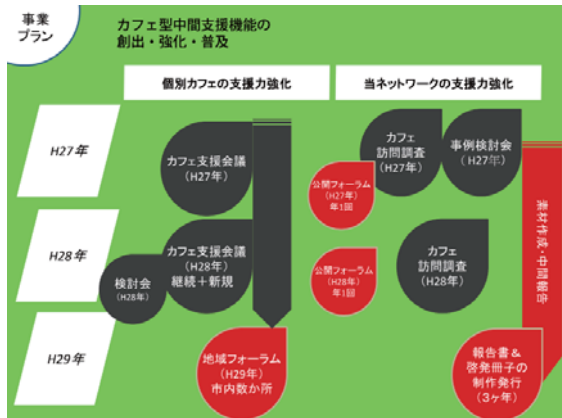
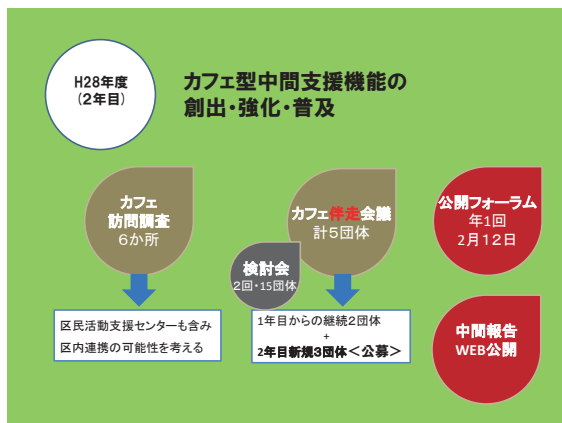
#### 5. 地域フォーラム開催（H29年）

「カフェ支援会議」の支援対象カフェが、各地域で多様な主体と連携した地域フォーラム（自主勉強会）を開催し、具体的な中間支援の力量形成・支援基盤強化に取り組む。カフェ支援会議の支援者が、継続して助言をする。

#### 6. 報告書、啓発冊子の制作発行（H27年、H28年、H29年）

事業成果（コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義、中間支援機能や役割の整理、コミュニティカフェでの支援の実例、事例等）を年度ごとに記録し、中間報告をWEB掲載。3年目には報告書と啓発冊子の2種類を発行する。

## ■事業計画



## ■2016年度(H28年度)の具体的な事業内容、期待される効果・予算等 趣旨・目的

### (具体的な事業内容)

#### 1. 訪問調査(6か所)

各地のカフェが持つ中間支援的役割の現状や課題、運営団体の意識確認も含めて訪問調査する。区民活動支援センターなどの地域版中間支援機能についてもヒアリングを行い連携の可能性を考える。

#### 2. カフェ伴走会議

(10回(3(+3団体)×@3回, 2(+3団体)×@2回)+2回)

前年からの継続2団体に公募で新規3団体を加えて5団体を対象とし、先行取組カフェ3団体の関係者が伴走支援を行う。また支援の効果を高めるために伴走先カフェに他カフェ関係者や中間支援組織、学識者等を交えた検討会(2回)を行いそれぞれの中間支援力の底上げをする。

#### 3. 公開フォーラム開催(1回、60名規模)

1と2で把握された現状を広く報告し、今後を考える場をつくる。

#### 4. 報告書の素材整理

成果をまとめ、中間報告をWEB掲載と関係者分印刷100部

### (期待される効果)

現状とニーズ把握、支援ノウハウ・実績の蓄積

- 各地のコミュニティカフェの意識や現状、課題についての把握が進み、当ネットワークが果たす広域中間支援のあり方を考える素地となる。

- カフェ伴走会議では潜在的な中間支援機能を当事者団体のみならず、地域の支援機関やステークホルダーなどと共有することで、意識向上啓発を図る。また3年目以降の地域レベル・区レベルでの中間支援機能の強化につなげていくきっかけとなる。

- 市内で中間支援に取り組むコミュニティカフェ実践者が、伴走者としてサポートすることで、相互支援の経験・実績が蓄積される

- 公開フォーラムを通して、コミュニティカフェが果たす中間支援機能についての理解を深めることで、身近な市民活動支援機能が強化されるとともに、行政やNPO支援機関との役割・機能分担について考えるきっかけとなる。

- 個別カフェ15か所の中間支援に対する理解と支援力強化、先行取組カフェ3か所の力量形成が進む。

- 当団体による個別支援の経験・実績が蓄積される。

# 事例検討会

## ■ 「中間支援の価値の見える化について」 検討会について

○目的 コミュニティカフェの中間支援機能の価値の見える化を図ること、また、共通の評価軸をみつけ、社会的な価値を説明可能にすることで、中間支援機能を継続発展できるようにするため、本検討会を二回実施。

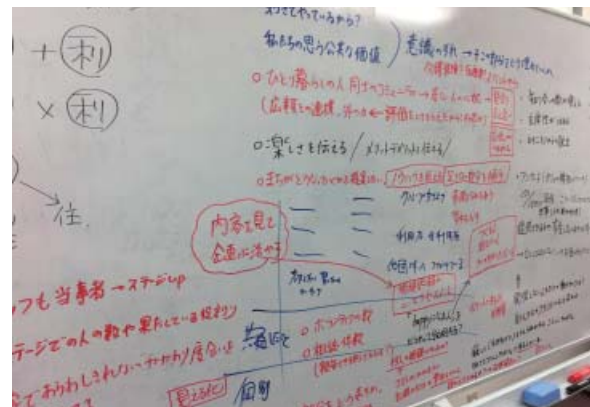
○対象 コミュニティカフェ運営経営に関わっている方。中間支援組織関係者。

### ○開催概要

・ 第一回：2016/10/11(火) 12:30-14:30 @こまちカフェ 参加者 13名

内容：中間支援の価値の見える化をする意義について整理、また整理をしていくための軸の洗い出し

第二回：2016/12/13(火) 10:00-12:00 @上倉田ケアプラザ参加者 13名





## 参加者名簿（所属等参加当時のもの）

お名前	所属（カフェ）
齋藤 保	港南台タウンカフェ、YCCN 代表
米田 佐知子	まちづくりフォーラム港南、YCCN 世話人
鈴木 智香子	大倉山ミエル、YCCN 世話人
松本 和子	コミュニティカフェ夢みん
岩室 晶子	シェアリーカフェ
夏目 千絵	横浜市市民局市民活動支援課
阿部 茂男	さくら茶屋にししば
小澤 あさみ	大倉山おへそ 代表
小松 由希子	大倉山おへそ 代表
星崎 靖子	コミュニティサロンおさん
西野 幸子	コミュニティサロンおさん、
吉田 洋子	反町駅前ふれあいサロン
山田 顕子	こまちカフェ
森 祐美子	こまちカフェ、YCCN 世話人



## 事例検討会

---

### ■定義・可視化について

#### 【「中間支援の価値の見える化」の課題】

・コミュニティカフェは成り立ちや形態、利用者や重視する価値も様々のため、共通項目を立てることは容易でない

・数値的な評価のみならず「数値で表しにくいもの」の洗い出しが重要

・数値化したとしても見方によって捉え方が変わるという「数字の危うさ」もある。例えば関わった人数だけでなくどのようにどれくらい関わったかなどの質的なところも表現できる指標が必要

・雑談から派生した相談が多い。評価のためどこまで記録する必要があるか、そのための実務的な難しさ（記録の手間、その支払い等）

などが挙げられた。

#### 【基本共通評価項目の整理】

上記課題を踏まえながら、各視点ごとに想定される共通評価項目を整理した。

- ① カフェに対する期待：相談件数、視察件数
- ② 透明性：数値（収支）、事業報告
- ③ 共感：ボランティア数（のべ）、ボランティア活動時間数（のべ）、寄付額
- ④ 自己実現行動：貸しスペース件数または時間数
- ⑤ 変化：中間支援の結果（事例）

① は特に対内的中間支援を量で把握する目的

② ③④は対外的に説明に有用。

⑥ は、対内対外の双方にとって重要な指標。



## 【記録の方法】

上記5つの指標の現状の記録方法について整理をした。

(実施有無、記録有無、資料有無欄の数字は、第2回検討会に参加した5つのカフェの代表者が記載した有無の集計結果。)

		実施有無	記録有無	資料有無
カフェに対する期待	相談件数(年間)	5	2	0
	視察件数(年間)	5	4	2
透明性	数値(収支)	5	5	5
	事業報告 (実施時期や方法)	4	4	4
共感	ボランティア数(のべ)	4	4	3
	ボランティア 活動時間数(のべ)	4	4	3
	寄付額	4	4	3
自己実現 行動	貸しスペース件数 または時間数	5	5	3
変化	中間支援の結果(事例)	6) 参照		
上記以外の指標	共通	・利用者数・購入者数・地域の人からの理解(町内会、商店街)・地道な毎日の質的な評価・生み出された事業や活動数・チラシ活用件数・ランチ事業・事務局機能数・表彰件数・協同事業数・メディア掲載数・ウェブアクセス数・団体NPOの利用件数・ネットワーク(他団体との)・地縁組織や行政とのつながり具合・情報発信量・営業日数・利用の世代等		
	個別	・一般の方の入りやすさ(障がいの方用の施設と違って入りにくい等ないか)		

この結果、基本共通評価項目は有用でも、現時点で記録を揃えているカフェは少なく、その方法や実務的な検討が必要になったことが明らかになった。また、協働事業や事務局機能等ネットワークを評価する評価項目や表彰件数やメディア掲載数等を通した第三者的な評価項目等追加共通項目の候補もあげられた。

### 【「変化」の項目について】

また、「変化」の評価方法については、別途様々な中間支援の事例を持ち寄り検討した。その結果、①お客様自身の変化②新しいつながり③地域の方の意識の変化④運営者自身の変化⑤生み出された地域の機能⑥地道な日常の評価の6つのカテゴリーにわけて整理できた。

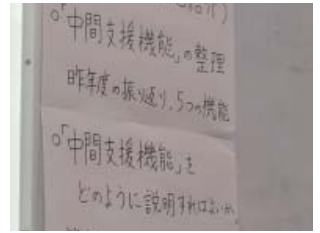
例として以下のような変化が現在コミュニティカフェにてうまれている。

#### ①お客様自身の変化

- ・カフェで講座をする人が公的要素について考えるようになり後援がとれるようになった
- ・お客様からボランティアやスタッフになった。
- ・利用者が助成金に応募した
- ・貸しスペース利用により、教室開催（開業）へのきっかけになった
- ・ひきこもっていた学生がボランティアにきてくれて、その後他イベントにも参加をしてくれた
- ・とあるお母さんは社会に参画しているという意識がでて、最近ニュースを見るようになったと聞いた

#### ②新しいつながり

- ・自治会、市民、商店会、行政などのつながりがフォーラム開催によってできた。
- ・企業と地域のつながりがつくれた
- ・横浜経済新聞が記事を掲載してくれた
- ・若い人（学生）の活躍で評価があがっていった



- ・他地域との連携がうまれた
- ・参加者同士でのゆるやかなつながりが生み出されるようになった
- ・ギャラリーや他のカフェ等をつなげることで新しい可能性がみえてきた
- ・利用者同士が情報交換をするようになった
- ・タウンニュースが記事にしてくれるようになった

### ③地域の方の意識の変化

- ・他商店が子供椅子を店内に置くようになった
- ・地元からの理解が深まった(連合会長や町内会長)

### ④運営者自身の変化

- ・障がい者地域作業所のサロン位置づけが変化した
- ・他人の子供をみることで自分の子供がいとおしくなった、という声をきく

### ⑤生み出された地域の機能

- ・新しい地域コミュニティのグループがうまれた
- ・キャンドルナイトなど新たなイベントがうまれた(小箱作家の発意、事業者・市民・公共施設の参画あり)
- ・お弁当(食)が核となって、地縁でのサロン・認知症カフェ・子ども食堂とひろがっている
- ・企業とともにまちづくりのプロジェクト誕生

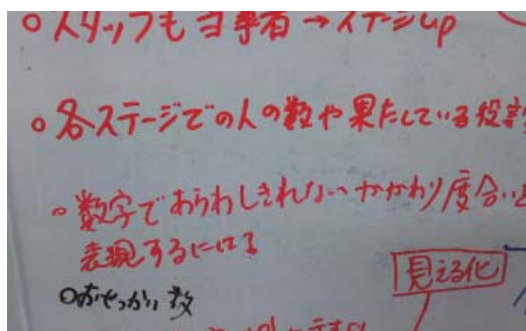
### ⑥地道な日常の評価

- ・お客様の評価
- ・第三者による評価
- ・視察にきた方からの評価

上記の整理の中で特に議論になったのが、「変化」のみならず、「地道な日常をどう評価するか」。どうしても変わったことや新しいこと、生み出されたことが注目されるが、何より継続していることや場をひらきつづけていること、そのための日常やその日常の中で起きていることをしっかりと評価する必要があるのではないか。

そのための指標が議論され、上記のようにお客様からの評価や第三者からの評価等が追加された。特に視察に来た方については、視察時その場でアンケートにこたえてもらうことで、フィードバックを常に得られるようにする等の案が出た。

以上



## ■本事業におけるコミュニティカフェ及び 中間支援の定義について

●本事業において「コミュニティカフェ」とは次の3要件を全て満たしている場をさす

- ・目的なく、誰でも利用できる
- ・飲食や物販、スペース貸など金銭のやりとりが可能である
- ・地域と社会につながる機会が用意されている

●本事業における「カフェ型中間支援」とは次の5つの力をさす

### ①持ち込める力

カフェに「やりたいこと」や「ニーズ・相談」を持ち込める状態があること

例) カフェでイベントをやりたい、こんなことで困っている等の相談がスタッフにできる等

### ②関われる力

既存の企画や事業に何かしらの形で「関われる」こと

例) カフェのボランティアやイベントのお手伝い等

### ③循環をうむ力

地域内の他施設と連携をして情報を配下したり伝えることで、地域内で人の循環をうむ力を持っていること

例) 他の施設の情報のチラシを配下する、スタッフが口コミで伝える等

### ④横串さす力・ネットワークを小さく生んで広げる力

地域内の団体同士を引き合わせるなどゆるやかなネットワークを生み出す力

例) ●●ネットワーク会議のようなフォーマルのネットワークではなく、インフォーマルなつながりを生み出す力。

### ⑤クロスさせる力・官民への提言

様々な世代や立場の人達同士で意見交換をする場をもうけたり、集まって出た意見やアイデアを官民へ提言する力

例) 地域の課題について議論する場をもうける等



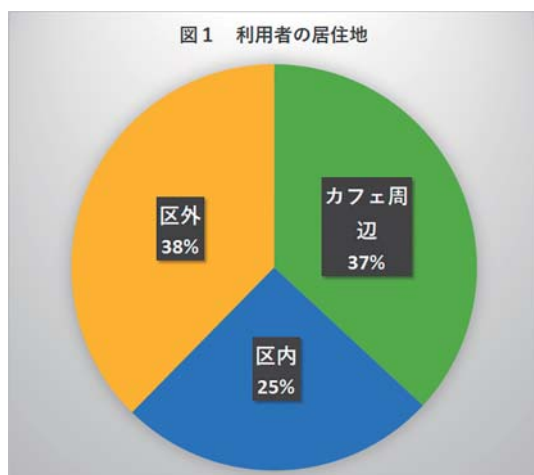
## 利用者にとってコミュニティカフェの存在意義とは何か

田所 承己（帝京大学文学部専任講師）

### 1. はじめに

コミュニティカフェの中間支援機能を充実させていくためにはどうしたら良いのか、ここではその手掛かりとして「利用者にとってのカフェの存在意義」について考えてみたいと思います。そのために、実際の調査データの分析結果をご紹介します。筆者は2015年の4月から7月にかけて、横浜市内のコミュニティカフェ3箇所において、カフェ利用者を対象とする質問紙調査を実施しました。最終的に286票（回収率67.0%）のデータが集まりました（有効回答数は273票）。

一般に、コミュニティカフェは地域の交流拠点として見られることが多いようです。しかし、今回の調査から、カフェ周辺に居住している利用者は全体の37%にすぎませんでした（図1）。カフェが所在する同一区内に居住している人が25%、さらに区外から通っている利用者が40%近くもいます。こうしたデータから、地域の人々の「相互扶助」や「コミュニティ的な居場所」といった機能を越えて、より多様な観点からカフェの中間支援機能を見据えていく必要があることがわかります。

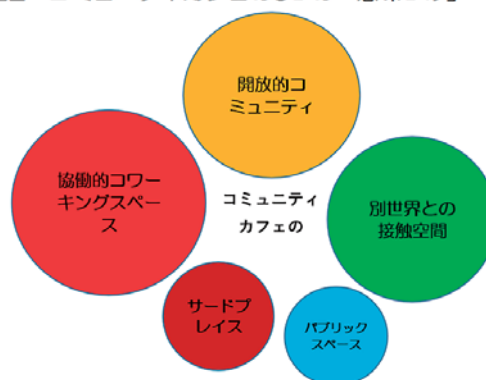


### 2. 利用者にとってのカフェの存在意義

コミュニティカフェの利用者はカフェにどのような意義を感じているのでしょうか。調査では、カフェの「意味づけ」について尋ねました。つまり、利用者が日常生活のなかでカフェという「場所」をどのように位置づけているのか、あるいは自分の生活や人生にとってどのような意味をもっているか

思っているのか、因子分析という手法を使って分析を行いました。その結果、つぎの5つの意味づけを利用者が行っていることがわかりました。

図2 コミュニティカフェの5つの「意味づけ」



最も強く見られたのは「協働的コワーキングスペース」と呼べるような“仕事や自己実現において刺激を受ける場”というような意味づけです。たとえば「他者との接触によってアイデアが生まれる場所」、「新しい協働やコラボレーションが生まれる場所」、あるいは「自己実現に向けて刺激を受けた場所」など、何からの活動を推進していくうえでの“インキュベーター”的な意味合いが見られました。同時に「人に必要とされているという実感を得られる」、「つながりを感じることができる」といった協働的な紐帯の意識もそこには生まれていました。

次に見られたのは一般的なコミュニティカフェに対するイメージと比較的近い「開放的コミュニティ」と呼べるような意味づけです。「信頼感ができている」、「安心感がある」、「この場のつながりは一時的なものではない」など、いわゆるコミュニティ的な場所として受けとめる傾向が見られます。ただし、同時に「誰もが対等に振る舞える場所」、「初めて会う人同士でも気軽におしゃべりできる場所」など、古いタイプの共同体とは異なる開放的な性格をもつ場として意味づけられています。

他方で、これまであまり指摘されてこなかったような「別世界との接触空間」という意義づけも見られました。これは、今の自分にはまだない能力や情報、あるいはそうしたものをもたらしてくれる多様性を含む別世界へとつないでくれる空間といった意味づけです。具体的には、「ここはふだん出会え



ないような多様な人びとに出会える場である」、「ここは多様な考え方や価値観に出会うことができる場である」、「ここは、アイデア、機会、人脈をシェア（共有）することができる場である」、「ここで自己実現のために必要な情報や人脈、スキルを得ることができる」といったカフェの受けとめ方です。こうした傾向は、とくにカフェ周辺以外の区内や区外など遠方からカフェを訪問している利用者に強く見られます。

そのほかに、それほど傾向は強くありませんが、「普段の役割や肩書きから解放される」、「自分の居場所のように感じられる」といったように、職場や家庭などとは異なる居心地のよい居場所＝「サードプレイス」的な意味合い、あるいは「ここは目的がなくても気軽に訪れることができる」、「どんな人でも受け入れてくれる場である」といったように、誰に対しても開放されている、言ってみれば公園や広場のような「パブリックスペース」的な意味合いで受けとめている傾向も見られました。

### 3. カフェのチラシ閲覧機能について

先にカフェは「別世界との接触」をもたらしてくれる意義があると述べましたが、単にそこに集まる「人」だけでなく、地域などの「情報」を介しても「多様性を含む世界への扉」を開いてくれる面があります。そうした役割を担っているのが、カフェに置かれているチラシです。

カフェに立ち寄った際に、多くの人はチラシを多かれ少なかれ閲覧しています。カフェに立ち寄る人の66%、つまり3分の2の利用者がチラシに目をとめています。



では実際に、どのような内容のチラシが閲覧されているのでしょうか。図4は、チラシを一度でも閲覧したことのある利用者全体のうち、それぞれの分野のチラシを閲覧したことのある人の割合を示したものです。

図4 分野別チラシの閲覧割合

チラシ分野	%	チラシ分野	%
地域情報紙	66.4	スキルアップ	18.6
趣味教室・サークル	50.7	行政発行	17.1
子育て・親子	35.7	セラピー・ボディケア	13.6
文化芸術イベント	28.6	福祉サービス	10.0
NPO・NGO	20.7		

図4より、地域情報誌（情報紙）や趣味の教室やサークル関係のチラシに対する関心が高いことがわかります。また、子育て・親子関係のイベントや文化芸術イベントのチラシもよく読まれています。では、こうしたチラシを見て、実際のどのくらいの人がそのイベントやサークルなどに参加しているのでしょうか。

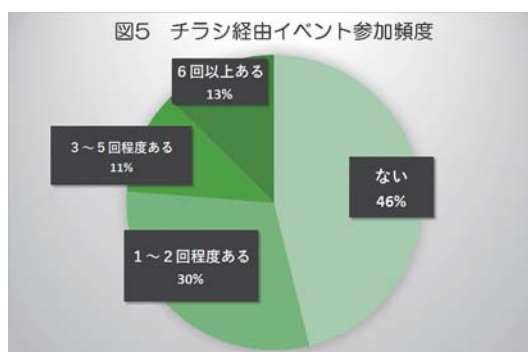


図5より、チラシを閲覧してもイベントなどに参加しない人も46%ほどいますが、半分以上の人がイベントに参加していることがわかります。まとめると、コミュニティカフェ利用者の3分の2の人びとはチラシを閲覧しており、そのうちの過半数の人がチラシを介してそこに掲載されたイベントや集まりに参加しているのです。その意味では、カフェに置かれたチラシは地域内外の“新しい世界への扉”を開いてくれる機能を担っているといえるのではないのでしょうか。

#### 参考文献

- 田所承己『場所をつながる／場所とつながる——移動する時代のクリエイティブなまちづくり』弘文堂、(近刊)。
- 田所承己「モビリティ時代に人はなぜ場所に集まるのか」『帝京社会学』30, 2017。

## 事業 2

# 個別カフェ伴走会議

## Case01 –シェアリーカフェ

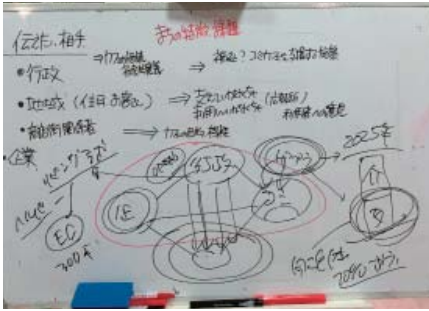
### シェアリーカフェ概要

●所在地	横浜市都筑区中川 1-4-1-107
●開設	2014年11月
●運営体制	2013年NPO法人の会員は20名、カフェは実質10人が動いている（周辺在住の人たち） ボランティアは0人
●活動事業の内容	(1)シェアオフィス、コワーキング、レンタルスペース (2)地場産野菜、調味料にこだわった、カフェ (3)まちの事務局 チラシ配架（コピー機、リソグラフ設置）(4)福祉作業所の商品展示販売 (5)イベント、セミナー開催
●立ち上げ経緯	・1999年都筑区の生涯学習の勉強会から生まれ、2003年にNPO法人化。 ・1999年：「環境」「まち」というテーマのもと生涯学習の勉強会からまち歩き、地図作りを通して、地図展を開催、東京都市大学などとも連携 ・2003年 行政職員より、活動の事業化を進められ、NPO化 ・2004年～2006年 環境創造局「環境にやさしいまちづくり協働事業」で落書きされない壁作り事業に着手 ・2008年～2010年 経済観光局の助成金で「テレワークを使ったワークライフバランス」事業に着手 2011年～2014年 横浜市委託の「ひとり親家庭等在宅就業支援事業」を受け、「はまみらいネット」を立ち上げる。・2013年11月 「シェアリーカフェ」をハウススクエアとの協力関係の下オープン。
●組織・運営団体	NPO法人 I Love つづき スタッフの意識が高く、経営、運営者であることの意識を、全員が共有している。
●事業性・収益性など	事業費1500万円（事業費1100万・委託費400万） カフェ時給930円
●外部との連携	NPO法人ミニシティ・プラス、都筑ハーベストの会、中川のまちを活性化する会、中川ルネッサンプロジェクト、ハウススクエア横浜、都筑区民利用施設情報交換会

### 個別伴走会議概要

第1回：2016年5月25日	シェアリーカフェメンバー3人
第2回：2016年9月20日	シェアリーカフェメンバー2人 いのちの木 2人、アスタ荇田1人、ほっとカフェながかわ 2人





## ●これまでの課題や現状、伴走会議での取り組み

### ▽運営体制や組織について

地元の老人福祉施設との連携や企業の助成金申請などにより、昨年度伴走会議であげられた課題解決に具体的な一歩が踏み出せている

### ▽都筑区内のコミュニティカフェワークショップの実践

区内の4つのコミュニティカフェ実践者が集まり、中間支援の考え方やあり方についてワークショップや意見交換を実施した。

自分たちの活動を可視化できたことや、来年度コミュニティカフェフォーラム都筑版を行う際、自分たちのやっている活動をどのような風にもせていくか活動していくか考えたい。自分たちの活動を、誰をターゲットにして伝えたいかを考えていく機会となった。



## ●今後目指すべき姿や事業イメージ

・ 今後はより広範囲のコミュニティカフェに声かけたほうが良いのではないか？また団体や今後のつながりのあり方はどうするか？企業がコミュニティカフェを知らないことが多い。結果的に企業のイメージアップにつながるなど利益は多いはずなのでやりたいと思っている企業は多いだろう。マッチングするための方策を検討する。などといった意見が多く出された。

・ アスタ荏田やいのちの木など福祉ベースはすでに価値を見出されていると思われるが、シェアリーカフェやほっとカフェなかかわはNPOがやっているというだけでまだ活動の理解がしきれていない。港南台タウンカフェは港南区の区民活動支援センターランチ機能を果たしているなどの先進事例もある。たとえば地区センターの一部をコミュニティカフェにするなど共存するあり方はたくさんある。

・ それぞれのカフェが連携してできることは何かということを考えたい。

・ 都筑区の特徴があり、まちの特徴とあり方、課題を把握すべき。

・ 来年度以降にむけて、より議論を深めるためにもメーリングリストなどを活用して来年度の地域フォーラムに向けて情報交換・連絡を行っていく事となった。

## ■受け入れ団体の報告、所感

昨年からの伴走会議で出たアドバイスをもとに、昨年4月から区内の有料老人ホームとの連携（受託）をトライアルで始めた。今年3月よりレンタルギャラリーを開始することも決まった（助成金を獲得）。大家であるハウスクエア横浜との連携（広報活動、ハウスクエア利用企業へのPR、受託事業）をいっそう深める努力をし、赤字経営の脱却を試みている。

区内のコミュニティカフェ連携について情報収集と構想を練っている最中。そんな中、都筑区の区民利用施設情報交換会に今年度から、コミュニティカフェも公的施設として認められ、ほっとカフェとシェアリーカフェが、ケアプラや地区センターなどと共に参加し、意見交換をした。これは、YCCNが市民局に採択されたことで、区民利用施設のひとつとしてコミュニティカフェが認知されたからではないからだと思う。

また、区役所から広報誌を置くPRボックスの設置を依頼され、カフェ内に設置。行政や公的な団体の利用も増えていて、当団体が講師として受けることも多く、遠方からの視察も増えてきたが、まだまだ、それが収入になるほどには至っていない。

カフェ利用にセールスフォースによる一括管理を強化した。これにより利用に関する統計データなどが蓄積されるようになった。これらのデータを活かしていきたい。

[NPO 法人 I Love つづき 岩室晶子]



# 個別カフェ伴走会議

## Case02 ー大倉山おへそ

### コミュニティサロン「大倉山おへそ」概要

●所在地	東横線大倉山駅徒歩 4 分（横浜市港北区大倉山 2-5-11）
●開設	2014 年 1 月
●運営体制	運営委員会と現場運営チーム（有償ボランティア）
●活動事業の内容	(1)レンタルスペース、(2)ボックスショップ、(3)チラシ配架、(4)フリースペース (5)イベント：季節ごとのイベントを主催したり、地域行事等に参加協力している。
●立ち上げ経緯	・元々は大倉山ミエルで横浜経済局の受託事業として立ち上がる。大倉山在住の母親を対象にしたワークショップ開催（半年で 6 回程度）がきっかけ。商店会会長も含めて十数名の参加。フリーランス女性の参加が多く、活躍・働く場所のニーズが潜在的に存在していた。 ○経緯 ・2010 年度：街カフェ大倉山ミエル開業 ・2012 年度（2013.2）：まち普請採択を経て、「大倉山おへそ」開始。
●組織・運営団体	▽運営委員会：構成メンバーは町内会、商店街、市民らで構成。商店街会長がリーダー的な位置付けだが明確化されていない。商店会の若手メンバーも入っていた ▽現場運営スタッフ：有償でのペイドワークを想定していたが事業性が低い等の理由で、500 円 / 半日程度の有償ボランティアとなっている。サポートスタッフ（キリン組さん）
●事業性・収益性など	・事業費 100 万円ほど（内訳：事業費 60 万・委託費 40 万） ・利用は謝金を出すなどで、家賃や光熱費は商店街が負担している。
●外部との連携	・連合町内会（夢まちづくり実行委員会）・エルム通り商店街・横浜市経済局・ミエル・港北区地域振興課とのつながりが深い。また、バリアフリーの会・アイネット・ハピハピ・プチ企業家ママとのつながりもあるが連携というよりは個人的な関係性を維持している。エルム通り商店会との関係性をより見える形にしたいという意見がおへそ内で出ている。

### 個別伴走会議概要

新共同代表へのヒアリング 2016 年 5 月 31 日	おへそメンバー 2 名
第 1 回：2016 年 7 月 11 日	おへそメンバー 3 名
第 2 回：2016 年 12 月 8 日	おへそメンバー 3 名





## ●現在抱えている課題

### ▽運営体制や組織について

- ・2016年春に運営体制が変更。これまで運営の当番に入っていた子育て中の2人の母親が共同代表となった。伴い、ビジョンや事業企画・実施体制の見直しに迫られる状況が生まれた。伴走会議は、新代表の意向確認を踏まえて援助方針をたてた。
- ・設立当初に目指していた事業性重視路線から、利用者の利用満足度を高める場の運営を重視する路線へ変更。エルム通り商店会の大倉山おへそへの理解を得て深めることも目指し、商店会の個店との関係づくりに取り組み始めている。
- ・新共同代表は、これまで地域での活動経験はあるが、自身が有しているネットワークが、地域連携を生みだす大倉山おへその運営には充分でないという認識にたっていた。また、今後の目指すべき姿の実現のために、外部連携やまき込み力の強化を目指した。
- ・七夕やハロウィンなどのイベント企画や実施に、外部協力者を募り、おへそが機会提供や側面支援にシフトしたことは、住民に活躍の場をつくりたいというビジョンを具現化した。伴走会議では、企画準備から実施、振り返りまでのプロセスを見直し、ステークホルダーのリストアップや、連携の検証に役立てた。来年度は、中長期ビジョンと事業ごとの目標設定、次の展開への種まきの視点を持ちながら伴走会議の支援を深めたい。



## ●今後目指すべき姿や事業イメージ

- ・子どもと地域、お店のつながりが生まれ、深まるように
- ・人と人をつなげたい
- ・地域の人が活躍できる、元気になる場にしたい
- ・団体をつないで連携できることを生みだしたい
- ・「グローバル」等、企業や行政等から持ち込まれる提案を外部発信していきたい

## ■受け入れ団体の報告、所感

今年度はコアスタッフが5名から3名となり、新しい体制で運営していくことになった。それまでは団体の運営や方針に深く関わっていたわけではなく、イチからのスタートを切ったかたちで、「中間支援」の意味はもちろん右も左も分からない私達にとってYCCNの伴走支援は進むべき道を照らしてくれるものとなっていた。

常勤で専任できるスタッフが少なく、それぞれが子育てや地域での役割、仕事などを抱えている中で、日々の細々とした業務に追われるばかりで、商店会と連携したイベントなども開催するところまでで精一杯となっていることが多かった。しかし、伴走会議でひとつひとつのイベントについてスタッフで意見を交換し、想いを共有し、先につなげるという一連の流れの導きの中で、その先の自分たちの目標やすべき事が見えてくるようになった。

さらに、検討会議ではYCCNのメンバーからの経験に基づいた発言やアドバイスは問題解決の糸口となる気づきも多く、毎回おへそが成長する機会となっている。おへその基盤を整える1年を乗り越え、来年度はさらなるステップアップを目指したい。

[大倉山おへそ共同代表 小澤麻美]

## 事業 2

# 個別カフェ伴走会議

## Case03 - ハートフルポート

### 概要

●所在地	相鉄線希望が丘駅徒歩 10 分（旭区南希望が丘 58）
●開設	2014 年 6 月
●運営体制	個人
●活動事業の内容	(1)飲食 (2)イベント開催 (3)レンタルスペース (4)チラシ配架 (5)諸々の相談業務
●立ち上げ経緯	・2011 年 二世帯住宅の一階が空き家になったため、地域のニーズに合った使い方ができないか検討開始。 ・2012 年 横浜市経済局委託事業のソーシャルビジネス起業家セミナーを受講。やりたい事業を絞って、まずは入口として敷居の低いカフェとして活動を開始することに。 ・2013 年 室内の改装を開始。得意分野を活かした活動がしたい仲間に声をかける。 ・2014 年 6 月開店。
●組織・運営団体	個人
●事業性・収益性など	・個人事業主として営業。平均 20 名/日の利用者があり、家賃がかからない分、収益は上がっている。カフェスタッフ (4 名) には能力別・活動内容別によって人件費を支払う。「みなと食堂」に関しては、全員が地域のボランティア。
●外部との連携	いろんなイベント等を開催するにあたって、それを主催する団体・個人との連携は密接に。「みなと食堂」開催にあたっては、小学校 (特に保健室の教諭)・学童保育との連携、認知症カフェ開催に当たっては、地域ケアプラザとの連携、他 NPO 法人活動ホームふたまたがわシュガーボット、地区センターなどとの連携。

### 個別伴走会議概要

第 1 回:2017 年 10 月 6 日 (木)	メンバー 5 名
第 2 回:2017 年 11 月 10 日(木)	メンバー 4 名
第 3 回:2017 年 12 月 6 日 (火)	メンバー 5 名







### ●これまでの課題や現状、伴走会議での取り組み

- ・近隣の方にとってなくてはならない「居場所」の一つになりつつあり、また、住み開きのモデルケースとして多くの注目を浴びるようになってきている。そのなかで、カフェのオーナーでもありお客様同士をつなげる役割を果たしている代表の五味さんが講演など外にでる機会を増えていき、カフェとしての営業や実務とのバランスが課題になりつつあった。
- ・伴走会議では、まず日々のお客様との会話やお客様同士をつなげていることがとても大事な中間支援であることを全員で共有した。
- ・また、3年後のハートフルポートについて意見を出し合い「運営」「発信」「場所（地域のリビングルームとしての存在）」「事業」「住み開きの伝道」などの軸で整理、ビジョンの共有をした。
- ・3年後のビジョンのなかでも本事業のテーマでもある「中間支援」に焦点を絞り、今後何をしていきたいかを整理。実現のために、強みと更に伸ばせるポイントを出し合った。特に焦点をあてて議論したのは、「代表の五味さんがいない時間でも人と人をつなげる、人と情報をつなげるようになるには、何が必要か」という点であった。メンバーひとりひとりが地域の資源を知っているとつながられるという案が出て、地域資源の見える化を最後の伴走支援会議にて実施した。
- ・地域の中で「スキルをもっている方」や「ニーズをもっている方」の洗い出しをした結果、メンバーが多くの情報をもっていることが分かった。来年度についてはメンバー間で再度話し合いをもち、今後の方向性を考えることになった。



### ●今後目指すべき姿や事業イメージ

- ・お客様とスタッフの垣根を超えた運営がなされている
- ・カフェでありつつも、お客様も自ら関わっている
- ・お客様同士がお互いを家族と思える状況
- ・場を使って利用者が自主的にイベントができている
- ・住宅を使ってカフェができることがより多く伝えられ、また、それが事業になっている

### ■受け入れ団体の報告、所感

開業2年目。これまでは、目の前のことをこなすだけで精一杯だったところ、この支援会議を通して、ハートフル・ポートの強みと、弱みが可視化され、第三者の視点で活動を整理してもらうことで、自分たちだけでは気づかない点にも焦点が当てられ、今後の活動の方向性も考えるきっかけをいただきました。

3年目に向けて、営業体制の見直し、勤務体制の見直し、新たな人たちとのコラボ、新しい企画など、場があるからできること、場があるから広がる繋がりなど、自分たちの想いが形になっていくための伴走支援をしていただいたことは、とても心強く前に進む力となりました。「住み開き」という形態でのこれからのコミュニティ作りの推進など、自分たちだからこそできる活動のヒントもいただきました。

「中間支援」ということ自体にあまり意識がなかったスタッフも、日頃何気なくやっていることそのものが中間支援であり、カフェという場がその大きな役割を果たしていることを再認識しました。スタッフ全員参加でこの会議に臨んだことで、お互いの良さを認め合い、その活動への誇りを持ち、絆が深まったこともとても大きな成果だと思っています。ありがとうございました。

[ハートフル・ポート 店主 五味真紀]

## 事業 2

# 個別カフェ伴走会議

## Case04 一反町駅前ふれあいサロン

### 概要

●所在地	神奈川県桐畑（東急東横線反町駅改札口から1分）
●開設	サロンの開設日：平成22年4月13日
●運営体制	反町駅前ふれあいサロン運営委員会が運営、神奈川県障害者地域作業所連絡会、ふれあい支援ステーションのボランティアが常駐して日常管理を行う。
●活動事業の内容	月曜日から金曜日10時半から5時半。会議室利用は夜9時まで土日も可能 ①障害者の手作り品の展示頒布 ②フリースペースの運営 ③団体登録をした団体に貸しスペース利用 ④各種団体と連携してサロンや緑道、トンネルでのイベント開催
●立ち上げ経緯	東横線の地下化に伴い、跡地緑道の集会所としての拠点を作るようになった。
●組織・運営団体	反町駅前ふれあいサロン運営委員会のもとに、神奈川県障害者地域作業所連絡会、ふれあい支援ステーションが日常管理を行い、青木第一・第二自治連絡協議会、反町駅前商店街などと連携。毎月1回事務局会議のほか、所管の地域振興課、高齢障害課神奈川県社会福祉協議会も参加した合同運営会議を開催、情報交換、調整、検証を行う。 現場運営スタッフは、神奈川県障害者地域作業所連絡会スタッフとメンバー数人で3時まで。ふれあい支援ステーションは、午前1人午後2人半日、500円の有償ボランティア。 障害あるメンバーが運営に関わり、彼らの社会参加の居場所になることは特質の一つ。
●事業性・収益性など	公園の集会所なので行政が場所・光熱費を負担。ハード管理費として年72,000円の補助。残りの運営費用は手作り品の頒布と利用団体の寄付による。
●外部との連携	障害者の施設のイメージから徐々に皆が使うサロンに変わって来ている。町内会や自治会に理解されるようになってきた。市民活動の拠点とともに、多様な多くの人が使うサロンとなっており、障害者の施設のイメージからふれあいサロンとしての位置付けに変化している。

### 個別伴走会議概要

第1回：2016年8月1日	サロン ステーション事務局 3名
第2回：2016年11月14日	サロン運営メンバー 区役所職員 15名
第3回：2017年1月20日	サロン運営委員会 区役所職員 8名







### ●これまでの課題や現状、伴走会議での取り組み

- ・開設から5年、スタートアップ時にあった補助金の終了、サロン利用者やボランティアの高齢化など、運営にあたっての課題が見えてきた。作業所の作品の頒布場所・公園の集会所という発足時の経緯が、これからのサロンの運営や営業拡大に躊躇する意識が働き、地域に開かれた運営に踏み出せていなかった。
- ・駅前にあるという立地条件の良さ、これまで培った様々な団体・行政とのつながりを生かし、地域に開かれた交流拠点としてのサロンのあり方を目指すための課題の共有や、方針を議論した。
- ・伴走会議とは別に、サロンの事務局会議、関係者による合同運営会議、ボランティア会議などにも参加し利用者の意見を聞き課題を共有した。
- ・2回目の会議では、商店会、町内会、行政、社会福祉協議会、作業所、学生、ボランティアを集め、「より開かれたサロンにするために」「スタッフのやりがい、生きがいづくり」をテーマして自由に意見を出してもらい、80数項目の意見を集約し、3回目の会議で方向性を共有することとした。
- ・3回目では、町内会長、商店会会長、若者代表、ボランティア代表、作業所代表、区役所といったコアスタッフにより、2回目に出た意見を整理し、短期にできること、調整をしながらすすめること、中長期で考えることなどに課題をまとめ、まずできることから早急に着手することを確認した。



### ●今後目指すべき姿や事業イメージ

- シャッターしている時間が長すぎるためオープン時間を拡大、展示ウィンドの一定時間内夜間照明、利用者本位のサロンレイアウト変更など、まずは駅前の拠点が地域に開かれていることをアピールする。
- ・作業所や行政との関係で規制があったことを少しずつ緩めて、当初目指した気軽に誰でも入りやすいふれあいサロンとすることで、地域の人と作業所の利用者が暖かく交流できる場づくりを目指す。
  - ・拠点の継続のために、補助金に頼らなくても将来にわたっての自主事業で運営できるように、高齢障害者、町内会・自治会、市民活動団体、商店街、行政の5つの連携の輪を広げ、サロン利用者の幅や活動を広げて、更なる活性化に努める。

### ■受け入れ団体の報告、所感

外部の支援が入ったことで冷静に各運営主体が議論をすることができた。とくにワークショップの手法では皆が思い切った意見をだすことが出来た。必ずしも自分の立場にとらわれず意見交換できたことはとてもよかった。皆でサロンの方向を検討しようという雰囲気が醸成された。

違う立場の主体が皆でサロンを開かれた場所にしていくという共通のコンセプトの中できることから変えていこうという動きが具体的に出てきて即実行という形になったことはとても大きな成果であった。具体的にはウィンドウの照明を夜間つけるようにする、シャッターについて検討する、また区作連が休みの木曜日や土曜日に地域ニーズを把握したうえで積極的にサロンを開いていくなどである。

またボランティア事務局の事務局会議と神奈川区障害者地域作業所、ステーションの事務局、地域振興課、高齢障害課、区社協と合同運営会議を一か月に一度サロン開設時からやってきたが運営管理委員会は年に一度総会を開くだけであった。今回検討会のような形でサロンを地域に開いていくためにという会合を開いたわけだが、これから時々こういう会合を開いていくことが望ましいという意見も出てとてもよい方向になったと思う。

# 個別カフェ伴走会議

## Case05 コミュニティサロンおさん

### 概要

●所在地	市営地下鉄ブルーライン吉野町駅徒歩3分（横浜市南区南吉田町 2-17）
●開設	2012年5月
●運営体制	社会福祉法人たすけあいゆい
●活動事業の内容	(1)レンタルスペース、(2)小箱ショップ、(3)チラシ配架、(4)フリースペース (5)イベント：季節ごとのイベントを主催したり、地域行事等に参加協力している。
●立ち上げ経緯	<p>・商店街の一角にある空き店舗を活用したコミュニティカフェ機能の運営者代表の逝去等で運営が困難になり、地域と話し合いを実施。・地元団体との懇談会を3回行い、地元ニーズが、高齢者や障害者を問わない居場所機能であり、とくに子どもの居場所になるようにとの願いがあった。・2015年12月に運営を引き継いだ。当初、横浜市健康福祉局による整備費補助を受けて開設した施設だった。・横浜市健康福祉局の補助により、たすけあいゆいで必要な改修を行い、2016年4月末、内覧会を実施し、再スタートした。</p> <p>・横浜市と連携し、家庭環境等に何らかの困難を抱える子どもを主な対象とした居場所づくりについての「社会的インパクト評価モデル事業」の実践を担っている。</p> <p>・10月末からモデル事業を開始し、夕食の提供、学習支援の提供を行っている。</p> <p>○経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012.5：町内会が開設</li> <li>・2013.9：町内会から前 NPO 団体に運営を譲渡</li> <li>・2015.9～11：地元懇談会開催</li> <li>・2015.12：前 NPO 団体から運営引継ぎ</li> <li>・2016.4：リニューアルオープン</li> <li>・2016.10：開館時間を延長し、夕食の提供開始。</li> <li>・2016.12：学習支援ひなた塾開設</li> </ul>
●組織・運営団体	▽運営委員会：設立準備中 ▽現場運営スタッフ：たすけあいゆいの職員が配属
●事業性・収益性など	・事業費約 300 万円
●外部との連携	・連合町内会、民生委員・児童委員協議会、小中学校、福祉施設、等と懇談会を開催。

### 個別伴走会議概要

第1回：2016年9月26日	おさんメンバー2名
第2回：2017年1月16日	おさんメンバー7名
第3回：2017年1月30日	おさんメンバー6名







## ●これまでの課題や現状、伴走会議での取り組み

### ▽運営体制や組織について

- ・2015年12月に前任の運営団体より引き継ぐ形で運営開始となった。引き継ぐ前に、地域の自治会や団体、学校、行政等との懇談会を3回開催して地域の合意形成を図った。
- ・当初数ヶ月は試験運営となり、2016年4月より本格運営開始。社会福祉法人の各事業部門の職員が当番制でサロン運営に従事するスタイル。ボランティアは無し。
- ・地域の団体との懇談会を母体に、近く運営委員会に発展していく予定。

### ▽事業・活動について

- ・カフェ（100円）とランチ/夕食（350円）を提供。駄菓子の販売もあり小さなお子さんから高齢者まで幅広く利用され、ごく自然に交流が生まれる居場所機能を果たしている。2016年度からは行政との協働で小中学生の学習支援プログラムも実施。

### ▽伴走会議での取り組み

- ・現状のヒアリングや、運営スタッフのワークショップ・意見交換、他コミュニティカフェでの中間支援の取り組み実践例のケースワーク等を通して、現状のサロンが担っている役割や成果を確認するとともに、今後の課題を挙げ方策を検討した。



## ●今後目指すべき姿や事業イメージ

- ・現時点での稼働率が高くスペースが不足しているという状況でもある一方で、地域での認知度がまだ高くないという課題も感じている。
- ・空き時間やおさん以外の地域の拠点などとの連携・活用なども視野に入れて、地域の情報交流機能やコーディネート機能を果たすべく、スタッフの意識向上、それにとともなう組織（法人）としてのサロンに対する位置付けをより明確化する検討を行うことなどが考えられる。

## ■受け入れ団体の報告、所感

既存のコミュニティサロンの運営を引き継いで以来、日々走りながら運営に努め、ようやく10ヶ月が経ちました。いまでは常連のお客さんも来られるようになりました。地域の居場所であろうとする運営方針はぶれないようにしながら、いろいろと工夫をしているところです。

伴走会議では、月例及び臨時のスタッフ会議においていただきました。個々のスタッフが、コミュニティサロンおさんをどのように受け止めているかを語り合い、あらためて魅力はなにかを確認し、解消されていない課題を出し合ったりしました。他のコミュニティカフェの事例を紹介するビデオを見せていただきながら、自分たちのスペースの持っている可能性に気づくこともできました。

今後、スペースをさらに有効に活用し、利用者とのルールを共有し、場をマネジメントする意識を高め、そして、地域をマネジメントするお手伝い役を培っていければ、と考えています。

## コミュニティカフェ訪問調査

### ■訪問調査について

コミュニティカフェがどのように中間支援役割を果たしているのか、横浜市内外の事例に学ぶことを目的に訪問した。

本事業では、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動支援センターをはじめ区域の中間支援組織・活動拠点との連携についても考えることとしている。そのため、H28年度の訪問調査は、コミュニティカフェだけでなく区民活動支援センター・区役所地域振興課も訪問し、区域での中間支援機能や施設間連携の現況、区内コミュニティカフェに対する認知状況を確認した。

	名称	エリア
1	コミュニティサロン「さくら茶屋」	金沢区
2	芝の家	東京都港区
3	ソンベカフェ	鎌倉市
4	港北区地域振興課・港北区区民活動センター	港北区
5	都筑区地域振興課・都筑区民活動センター	都筑区
6	戸塚区地域振興課・とつか区民活動センター	戸塚区



調査 report 01

コミュニティサロン「さくら茶屋」

金沢区



●開設の経緯

地区社協の支部活動を前身とするボランティアグループ「西柴団地福祉サービス」のメンバー10人が中心となり2009年に「西柴団地を愛する会」を発足し、地域課題やニーズを訪ねる住民アンケートを実施。その結果に応える形で、常設拠点を開設を目指し、ヨコハマ市民まち普請事業に応募した。2010年5月に商店街の空き店舗活用したコミュニティカフェ「さくら茶屋」を開店、1年半後に運営組織をNPO法人化した。

●「さくら茶屋」の機能・活用状況・成果

・西柴団地内も高齢化が進み夫婦どちらかの外出が難しいご家庭が増加。近くにコンビニエンスストアがないため、開設当初より100円お惣菜を販売していたが、近年はランチの「お持ち帰り」要望が増え「お弁当」の需要にも対応。  
 ・高齢者をはじめとする買い物難民へのサポート（買い物代行）を金沢区社会福祉協議会から一部援助を得て実施。

・2014年から金沢区民活動センターランチ「つながりステーション」の機能を持ち、地域活動の相談や情報提供を行う。同じく「つながりステーション」同区内のコミュニティカフェ「ほっこり」と区役所とは、定期的に会合を持っている。

・子育ての悩みを持つ母親の話に、「さくら茶屋」スタッフが仲間づくりを勧め、「発達凸凹児親の会」が生まれた。金沢区の助成金申請などの運営助言もし、月1回「さくら茶屋」にて会を開催、毎回15人～16人が集う。

・商店街の各店舗は、自店以外の仕事をする余裕がない。そこで、さくら茶屋が間に入り「七夕まつり」「ハロウィン」等のイベント企画運営を担っている。イベントを通じて、商店を知って、遠くからもお客様が足を運ぶようになり、商店街活性に繋がっている。

・認知症カフェ（オレンジデー）は、高齢化すると誰もがなりうる「認知症」を地域住民が見守る街づくりを目的に、行政や地域ケアプラザ・社会福祉協議会・民生委員などと協力をしながら開催している。

●外部団体との関係、中間支援機能について



名称	コミュニティサロン「さくら茶屋」
運営	NPO法人 さくら茶屋にししば
所在地	横浜市金沢区西柴3丁目17-6（京浜急行金沢文庫駅徒歩15分）
開設	2010年5月開設
営業	営業日：月、火、水、木、金、土 ※祝日営業

少子高齢化が進行する西柴団地の商店街の一角に誕生。地域の人たちの居場所をつくり、つながりを深めるとともに、多世代間の交流を促進し安心安全のあふれるまちづくりを目指す。

## 芝の家



### ●開設からの経緯

・住民参加型の会議「芝会議」で人がつながる場を求める声があがり、港区の地区政策にプロジェクトが盛り込まれる。地域住民の交流促進（常設型の居場所）であり、新しい地域活動支援の実験事業として慶應義塾大学に研究委託された。

・初年度は計画してもできないことがあることを、大学と区が共通認識とし、場で起こることを丁寧にひろっていくことで検討を進めてきた。港区には5つの支所があり、それぞれが協働の窓口になっている。地域事業は支所の裁量でやれることも多い。

### ●「芝の家」の機能・活用状況・成果

・誰でも無料で出入りできてお茶を飲んで休憩をしたり、おしゃべりしたり、遊んだりできる場所。多様な方のそれぞれの暮らし方を受け入れ、理解しながら共存していくことを試す場づくりを行っている。利用者は年間240日間で9168人、一日平均38.2人（2015年実績）。全世代対象で0歳から高齢者までの利用がある。

・多様な世代が同居できる場所であるが、子どもや親子連れが賑やかに遊ぶ日もあれば、大人が多く集っている日もあり、日によって来場する人は多様で様子も様々である。「子どもの日」「大人の日」という表現でなく「昔あそびの日」と表現を工夫して、曜日によってフォーカスする年代を変えている。火曜・木曜日はお昼前からオープンし大人の人が集いやすくなるよう、水曜・金曜・土曜は正午～夕方にかけてオープン、子どもたちが遊びにきやすいように、といったねらいを持っているがいずれの日も誰でも過ごせる地域の居場所である。通りに面して開かれたつくりになっているので来ている顔ぶれや面白そうなことをやっている

か、外からのぞいて入ってくる。

・定例イベントは、初めて参加する人のきっかけとしても実施している。企画は日常来場している方の出番を作る形で企画されているものが多い。来場者からの提案や、スタッフからの後押しから生まれている。

・運営スタッフは、常勤の加藤さんの他に、スタッフが2名、学生を含む10人のボランティアが1日2名ずつでシフトを組む。日々の運営スタッフの多様性が、来場者の多様性を生み出す上でも大切だということがいえる。そこでボランティアスタッフとして運営に関わってくださるメンバーが継続してかわりやすい仕組みを作っている。有償ボランティア制度である。当初運営方法を検討していく中で、芝の家でボランティアとして場づくりに参加したい学生など特に若い世代にとって交通費や食事代など多少のボランティア謝金があることで継続して定期的にかかわれる状況がみえてきたことからである。有償ボランティアは、謝金額は上限を示した上で、各自設定している。

・利用者は、入れ替わりながらではあるが顔の見えるつながりができ、困ったときには助け合う、お互いの情報を伝え合うことが日常的になっている。利用者がイベントをやってみる、利用者からスタッフになるなど、関わりが深まる方や、地域のために何かやりたい、という人が増えている。

・「目的を持たずに過ごせる場所の大切さ」が認識されるようになってきた手応えを感じる。

### ●中間支援機能について

・相談されると解決策を示したくなるが、実際に「芝の家」は、その設置目的として困りごとを直接解決する役割は担っていない。しかし人生の中で休憩している時期に、ここに立ち寄るように通ってくる人もいる。困り事を抱える方の課



東京都港区



題に、最初から最後までは付き合えるわけではないが、傾聴し、その人生の一時期を見守ることは芝の家という場所ができる役割と考え、スタッフ・ボランティアスタッフが一人ひとりの市民として行動している。

・「芝の家」は直接支援でなく「つなぐ役割」。利用者の中で特に気になる人がいる場合には、福祉（区の関係機関や専門家）につなぐ。児童館の地区懇談会や高齢福祉の連絡会議には参加しており、ふれあい相談員は日常的に芝の家へ立ち寄っている。民生委員、高齢者関連の連絡会議、放課後児童クラブ、児童館などとは、会議や普段の活動の中でつながりができている。

・「芝の家」で何か企画を実施したいと来場する人も、まずは場に参加してもらい、芝の家がどう人の関わりを持っているのかを理解してもらい、交流の場をつくる1人になってもらう。

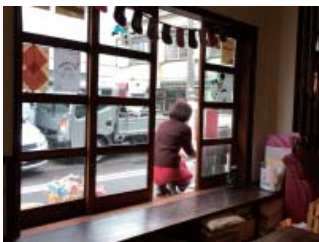
●スタッフミーティング

毎日開始前に「チェックイン」終了後に「振り返り」の時

間を持つ。チェックインではスタッフが抱えている気になる事から芝の家へ意識を切り替える時間でもある。全スタッフによる会議は年3~4回。月2~3回は区役所との定例ミーティングを持つ。定例ミーティングは公開なので、何かやりたいことを持つ人は、定例ミーティングに直接持ち込める。事前に個別相談に応じて、お試し実施をすることもある。

●港区の課題

・住民には高所得者が多いので、お金を使ってサービス利用で解決する傾向が強いと感じている。港区には、区民活動支援センターに類する施設はない。芝の家のようなゆるやかな地域交流拠点で過ごす中で「ボランティア活動」に関心がない方にとっても、誰かに気にかけてもらったりよくしてもらったことをきっかけに、自分も周りの人のことを気かけ、「気が付いたら人のためになっていた」という状況を生みだせるとよいと思う。



名称	芝の家
運営	三田の家有限責任事業組合
所在地	東京都港区 3-26-10 (JR 田町駅西口より徒歩9分)
開設	2008年10月開設
営業	営業日：火～土曜日。日曜、月曜、祝日は休み

2008年10月港区芝地区総合支所×慶應義塾大学の連携協力に関する基本協定による「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点として開設された。「場づくり」「人材育成」を通じた地域コミュニティ活性化のプロジェクトで、区役所と大学の共働による地域事業。

## ソンベカフェ



### ●開設の経緯

オーナー宇治香氏が大量生産・大量消費に疑問を感じ、40歳を機に18年務めた会社をやめ、2001年8月アジア料理を提供する飲食店として開店、16年目。鎌倉はカフェが多いまち（約90店舗）だが、ソンベカフェ開店当時は3〜4軒しかなかった。まちづくり・コミュニティ形成を直接の目的としてカフェを開業したわけではない。開店後数年は通常の飲食店として経営していたが、オーナーの問題意識を発信していくうちに、「伝える場」としてカフェが利用できると気づき、カフェでイベントや映画会を開くようになった。同じ価値を共有する人が集まり、情報交換が膨らんだ。他のネットワークとも通じてさらに周りの人と繋がり、結果的にコミュニティカフェ的な機能をもつに至っている。

### ●「ソンベカフェ」の機能・活用状況・成果

・カフェはテラスをいれて25坪。テーブル利用で25人、椅子だけなら35人位までお客様が入店可能。店の入口には、物販コーナーがあり、アジアグッズに混じって障害者施設の製品、市民活動の関連グッズや書籍が扱われている。フライヤーやカード、チラシなどが自由にとっていけるコーナーもある。

・日常的に集うことができ、飲食可能で和めることが、カフェという場があることの価値。

・「所有」から「共有」へのシフトを重視している。「所有」という考え方が始まってから紛争が始まったと言われる。カフェの営業日（週4日）以外は、お店をやりたいたいけれどもお金がないという人と、スペースと時間を全て共有しようと考えた。最低限のルールはあるが、協力し合い、助け合い、ゆだね合うことで皆が幸せになれると考える。めんどくさいことを乗り越えることに意味がある。

・店の裏に「みんなの畑」という名の小さな畑がある。誰がいつ来ても畑作業ができる。誰が植えても、誰が収穫してもいい。ルールはつくらない、とがめない、みんなのもの。それを受け入れられる人に、畑をひらいていく。

### ●店主が代表を務める市民グループ

・オーナーは「NPOかまわ」と「トランジション・タウン鎌倉」の代表として、地域とのつながりがある。どちらの団体も目的は同じ「持続可能な社会、まちづくり」「丁寧な暮らし」。集まる人のタイプが違っている。かまわはゆるくて音楽や踊りなどアート志向、トランジション・タウン鎌倉は企業勤めや事業主の集まりでマネジメントされた動き。組織のようで組織でない。枠にとらわれないことが居心地よいのかもしれない。

・ソンベカフェを使った映画上映会や車座になって話をする会などは、賛否異なる意見を持つ人が、同じ場で対話できる機会をつくる。イベントはソンベカフェだけでなく、色々な場所に出掛けてやるようにもしている。（「鎌倉あるものさがし」「鎌倉壱日無銭旅行」など）

・「鎌倉壱日無銭旅行」は、人と人が協力しあって成り立つ経済の実験的イベント。お金は便利なものだが、獲得することが目的になってしまっている。お金を介さず、お互いの得意なことを活かして地域をまわしていく。コミュニケーションをとって、互いにHAPPYにしていく。

・「持ち寄り」という誰かを喜ばせたいという物や気持ちが交換されることを重視。食べることは、楽しく美味しく人が集まれる。人となりが出る。

### ●中間支援機能について

・仲間という言葉は「仲間ではない人」を作ってしまう。垣根をつくって内輪で盛り上がり、閉鎖的にならないよう



鎌倉市



気を付ける。

・コミュニティカフェは運営者のポリシー・人生観が明確であることが大切だが、違うものの境界線「汽水域」となることも必要。片方だけでなく両方あることで広がりや余韻が生まれる。「対立」より「対話」を大切に、多様性を認め「寛容」であることが大切。

・NPO かまわでは3つのルールを大切にしている。

1. 対立しない、否定しない（対立は対立を生むだけ。だから対話を大事にしよう）
2. ポジティブに考える
3. ユーモアとセンスで楽しく

自分の意見を持つことは大切だがエゴにならないようバランスに気をつけている。異なる意見の相手から話を聞くと、何故そう考えるのかを理解できることもある。頭から否定せずに受け止めることが重要と考えている。

・「発酵」の力が生まれる場であること。

1. 新しいものが生まれる力
2. より深くよいものに変化する力

3. ワクワク楽しい気持ちになる力

●鎌倉の課題

・鎌倉は、本当に大切なものを残したい人と利便性を求める人が混在するまち。開発計画の度に反対の声があがるが、反対派は負けてしまう。環境や人に優しいまちづくりを目指すため、例えば車を排除しようと話し合うと50vs50で決まらない。

・鎌倉は観光資源に恵まれているが、鎌倉幕府が設置されていた場所など、重要なことは意外に知られていない。観光スポット以外にも魅力がたくさん潜んでいる。それを知ってから、まちをどうしていくかを語る必要を感じる。

・「トランジション・タウン鎌倉」で行っているイベント「鎌倉あるものさがし」は、自然、歴史、風土などの資源、地元のポテンシャルを探して歩く屋外ワークショップ型のハイキング。まちづくりは自分のまちをよく知り、愛着を持つことから始まると考えている。



名称	ソンベカフェ
運営	宇治 香
所在地	神奈川県鎌倉市御成町 13 - 32
開設	2001年8月開設
営業	営業日：木～日曜日（月～水曜日定休）

アジア料理を中心に木や布等にもこだわりがあるカフェとしてオープン。飲食をベースに運営していく中で、お客様や地域が自然と交わり、関わって現在のコミュニティカフェに近い形に発展していった。

# 港北区地域振興課・港北区区民活動センター

港北区



## 【港北区役所 地域振興課 生涯学習支援事業】

### ●事業内容（生涯学習支援）

- ①港北区生涯学級 ②区民活動支援事業 ③読書活動推進事業 ④地域ガイド活動支援事業⑤港北魅力プロモーション事業（ウォーキングマップの作成） ⑥歩いて学んでとくとくウォーク

### ●区民活動支援の考え方（方針）

港北区生涯学級は3年をひとつの単位として、区民が主体となり学びを通じて、自主的な運営につなげてもらえるよう、各種講座の企画時から3年後をイメージしている。様々な団体や施設などと連携しながら実施。

### ●施設間連携についての考え方

H28年度中にスタート予定で現在準備をすすめている。地区センター・地域ケアプラザ等と連携するため、個別訪問しヒアリング中。

## 【港北区区民活動支援センター】

### ●事業内容

- ①相談・情報提供 ②機材・布おもちゃ貸出（予約制）③施設利用

### ●運営体制・役割分担

役割や担当決めはしていない（スタッフ3名で臨機応変に対応している）

### ●区内の区民活動の特徴・把握している地域課題について

- ・活動者の高齢化、今後の担い手がないこと。

### ●地域内連携（施設間・その他）について

港北区社会福祉協議会の「ボランティアセンター運営委員会」に参加。年2回実施。運営委員は、ボランティアグループ、子ども、障がい、高齢者、関係者、地区社協、学校、支援センターで構成されている。

### ●センター事業・運営の課題について

- ・利用者の傾向として、60歳以上の方が多く見受けられる。
- ・団体や個人の相談対応に難しさを感じている。団体の運営や地域の課題について把握していないと相談にのれないこともある。
- ・区民活動支援センターは、職員体制3名のローテーション勤務である。そのため、研修参加や出張して取材等することに制約があるが、地域へ出かけ、区民の方や団体活動をしている方々とコミュニケーションを図ることは、非常に重要なことだと感じている。



名称	港北区区民活動支援センター
所在地	横浜市港北区大豆戸町 26-1
連絡先	045-540-2246
開館日	8：45～17：00（土日曜、祝休日、年末年始を除く）





【都筑区地域振興課（都筑区役所5階）】

・事業内容：市民活動・生涯学習支援 青少年健全育成 文化振興 国際交流、区制25周年に向けた区史の作成 区民利用施設関係

○区民活動支援の考え方(方針)

地域人材の参画レベル、個人/団体の別に応じて、支援事業を実施している。地域と接点がない方々がまずは接点を持ち、やがて活動に参加するのみならず、自ら地域活動の担い手となるよう、人材を発掘・育成するための事業展開を試みている。

○施設間連携についての考え方

区と区民活動支援センターが、課題共有と連携意向や現状把握のために、全施設にヒアリングに歩いた。事業上の連携は既に行われているところもあり、内容充実を目指して事前共有や打合せを重ねている。地区センター・コミュニティハウス・ケアプラザ等の情報交換会を開催し、施設やエリアごとの課題や要望、施設間連携そのものを話し合っている。理想を追うのではなく、現実的な実践につなげたい。施設間の関係づくり・情報共有のベースが出来てきた。区内のコミュニティカフェは、講座開催の会場や、新年会の

会場?として利用している。特徴の打ち出しが上手く利用者が集まっている印象を持っている。

【都筑区民活動センター】

・事業内容：市民活動や生涯学習をはじめたい、深めたい区民のための施設。事業では、地域デビュー応援サロン・大人の学級などで個人支援をしている。すでに活動している団体に対しては、相談・コーディネートのほか自主事業開催つづき人交流フェスタ・団体スキルアップゼミ・合同成果発表会・区民活動補助金・広報誌“緑ジン”などで支援を行っている。

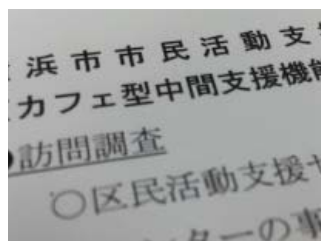
・運営体制・役割分担：5人の職員でシフトを組み、常時2人以上体制(外部へのヒアリング等が可能)。

○把握している地域課題

呼び寄せ高齢者や、起業を志す30～50代女性、専業育児女性などに、地域での活動活躍を考える機会づくりをし、地域の新しい担い手の掘り起しを進めていきたい。地域で対人支援活動をしたい区民と、支援対象者のニーズのマッチングがむずかしい。

○センター事業・運営の課題

自主事業間での好循環(つづき人交流フェスタ⇔スキルアップゼミ⇔補助金の活用⇔成果発表会)で、団体自立を更に促すことにつなげたい。また、民間企業からの依頼(高齢者施設のデイサービス等)は、活動者に発表の場を増やす意味合いで対応しているが、線引きが悩ましい。



場所	〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1 都筑区役所1階 市営地下鉄 センター南駅下車 徒歩5分
開館日時	毎日9～17時(第3月曜、祝日、年末年始<12月28日～1月4日>、施設点検日を除く)
連絡先	045-948-2237

# 戸塚区地域振興課・とつか区民活動センター

戸塚区



## 【戸塚区地域振興課】

・事業内容：生涯学習、スポーツ・文化振興、防犯、自治会・町内会、交通安全、資源化推進、消費生活

区民活動支援事業は、以下4事業。「とつかレッジ～戸塚のいいところ学び隊～」事業、とつか区民活動センター運営事業、とつか区民の夢プロジェクト事業、読書活動推進事業。

### ○区民活動支援の考え方（方針）

区民活動センターと区と一緒に作成している五箇年計画に沿って計画を立て実現していく。センター運営を民営にしており、センターに“お役所感”が少なく、「支援」でなく「センターと区民と一緒に取り組む」風土が醸成されている。協働契約で行政・センターの役割分担が明確にできている。

### ○施設間連携について

2015年度「地域施設連携事業」を始めた。区民活動センター運営法人が連携事業も受託。以前には施設間の館長会等はなく、集まって互いを知り合い、顔の見える関係をつくることから取り組んでいる。センター受託法人が運営するコミュニティカフェの活動については、とつかレッジの訪問場所にするなどの関わりがあり、必要に応じた情報交換を行っている。



## 【とつか区民活動センター】

（運営：NPO 法人くみんネットワークとつか）

・事業内容：①市民活動、生涯学習活動、ボランティア活動についての相談・支援、②地域の声を反映させる仕組み作り、③場の提供、④情報の提供、⑤活動入門事業、⑥ネットワーク構築事業、⑦人材育成・スキルアップ事業

生涯学習や自主活動を推進するとともに、困り事・相談事を抱える方に適切な場所を繋ぐことも大事にしている。

・運営体制・役割分担：常勤5名、非常勤5名。業務内容は同じ。区役所のランチにもスタッフが常駐。

### ○把握している地域課題

多世代がほっとできる場・居場所を求めている。コミュニティカフェは、参加できて「生きがい」「居場所」が提供出来るが、区民活動センターは中間支援としての機能であり、その役割は担えない。「親子」「シニア」など利用者特色がつくので、区民が自分にふさわしい場所を選択できるくらいコミュニティカフェがあると良いと思う。

### ○地域連携について

まず必要なのは公的施設間の連携。設置目的や管轄の違いを擦り合わせるので、まだ民間施設を加える段階ではない。将来的には視野に入れられたら良い。まちづくりの拠点としてコミュニティカフェは外せない存在で、相談者に適した場所を紹介する上で、地域リソースの選択肢に位置づけてはいる。

### ○センター事業・運営の課題

様々な社会資源とさらに連携をとっていく必要がある。

場所	〒 244-0805 神奈川県横浜市戸塚区川上町 91-1 モレラ東戸塚 3階 JR 東戸塚駅西口から徒歩 1分
開館日時	火～金 9:00～21:00 土日祝日 9:00～17:00 ※毎週月曜日・年末年始休館。
連絡先	045-825-6773



# 公開フォーラム

## <カフェ型中間支援機能 コミュニティカフェフォーラム概要>

- 名称 コミュニティカフェフォーラム
- 日時 2017年2月12日(日) 14時～18時
- 場所 ふらっとステーション・とつか(横浜市戸塚区)
- プログラム概要 コミュニティカフェの価値とは?～カフェ型中間支援機能について深めよう～  
【一部】

- 14:00 開会あいさつ 横浜コミュニティカフェネットワーク代表 齊藤保、横浜市市民局 市民活動支援課長 岩岡敏文
- 14:05 事業説明・報告  
横浜コミュニティカフェネットワーク世話人 米田佐知子・森祐美子  
伴走会議報告 シェアリーカフェ、大倉山おへそ、ハートフルポート、反町駅前ふれあいサロン、コミュニティサロンおさん
- 15:30 カフェ的交流タイム ～お茶をしながらフリートーク

【第二部】

- 16:15 「みんなで語ろう、コミュニティカフェの価値」  
登壇者：こまちカフェ 森祐美子 (NPO 法人こまちぷらす)、シェアリーカフェ 岩室晶子 (NPO 法人 I Love つづき)、ハートフルポート 五味真紀、横浜コミュニティカフェネットワーク 米田佐知子  
コーディネーター：名和田是彦氏 (法政大学教授)
- 17:45 まとめ・閉会挨拶 横浜コミュニティカフェネットワーク代表 齊藤保
- 18:00 終了



2017年 2月12日(日) 14時～18時  
会場：ふらっとステーションとつか 参加費：1500円(資料代・お茶代含む)  
対象：コミュニティカフェ実践者、行政担当者、関心のある方。  
※本事業は平成28年度横浜市市民活動支援センター自主事業として横浜市中区と協働で実施しています。 終了後、同会場で軽い交流会を行います。参加費 1000円

**プログラム(予定)**

**第一部 28年度事業報告**  
(伴走会議・カフェ視察レポート等)  
会場のみんなでワークショップ  
ブレイクタイム

**第二部 パネルディスカッション**  
「みんなで語ろう、コミュニティカフェの価値」  
会場内で、各コミュニティカフェ紹介コーナーの展示も行います

主催：横浜コミュニティカフェネットワーク  
横浜市市民局  
申し込み：FAX 045-306-9004 申し込みフォーム [nMhCSu](http://nMhCSu)  
申し込みに関するお問合せ 045-306-9004(シェアリーカフェ内)  
事業に関するお問合せ：yokohama.ccn@gmail.com  
045-832-3855(港南台タウンカフェ内)

申し込み：1月10日～2月1日まで  
※青年会議所のため、お断りすることが多くなりましたので、お早めにお申し込みください。



横浜市民活動支援センター自主事業 ～ カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及  
フォーラムコミュニティカフェの価値とは? ～カフェ型中間支援機能について深めよう～

コミュニティカフェという新たなスタイルの地域拠点。横浜市内に少しずつ生まれています。敷居を低く、誰でも立ち寄れて、困った時にも利用してほしい。運営者は独自のやり方を手探りで探っています。市内で早稲に開設したカフェの中には、エリアマネジメント、ネットワークづくり、相談機能など、中間支援機能とも言える役割を、地域で果たしているところも出てきました。

この事業では、コミュニティカフェが「地域の中の中間支援」として果たしている役割や意義を「見える化」することを目的としています。2年目の事業報告と、これらにむけての意見交換にぜひご参加ください。

13:30 開場	横浜コミュニティカフェネットワーク代表 齊藤保 *敬称略	
14:00 開会あいさつ	横浜コミュニティカフェネットワーク代表 齊藤保 横浜市市民局 市民活動支援課長 岩岡敏文	
第1部	14:05 事業概要説明	横浜コミュニティカフェネットワーク世話人 米田佐知子 森祐美子
	14:05 伴走会議報告	シェアリーカフェ、大倉山おへそ、ハートフルポート、 反町駅前ふれあいサロン、コミュニティサロンおさん
第2部	15:30 カフェ的交流タイム	お茶をしながらフリートーク 16:00 休憩 (15分)
	16:15 「みんなで語ろう、コミュニティカフェの価値」	登壇者：こまちカフェ：森祐美子(NPO法人こまちぷらす) シェアリーカフェ：岩室晶子(NPO法人I Love つづき) ハートフルポート：五味真紀(ハートフルポート代表) 横浜コミュニティカフェネットワーク世話人：米田佐知子 コーディネーター：名和田是彦
17:45	まとめ・閉会あいさつ	横浜コミュニティカフェネットワーク代表 齊藤保
18:00	終了	*終了後、同会場で軽い交流会(参加費別途1000円)を予定しています。ぜひご参加ください。

**横浜コミュニティカフェネットワーク：YCCNとは?**  
この10年ほどの間に、「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が各地に次々と生まれてきています。敷居を伴わないカフェの店舗も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様です。多様なスタイルで利用者に居場所や情報、地域での役割(出番)も提供しています。横浜コミュニティカフェネットワーク(YCCN)は、カフェ実践者相互の学びあいのネットワークです。コミュニティカフェの可能性や社会的価値の発信を目的としています。  
<http://yokohama-ccn.jpmdo/>

お名前 \_\_\_\_\_ 所属(あれば) \_\_\_\_\_

ご連絡先(メールアドレス or お電話番号) \*携帯アドレスの場合は、不着のケースが多いので、必ず電話番号もお願いします \_\_\_\_\_

属性について  
 コミュニティカフェ実践者  行政関係者 (区民活動支援センターなど)  中間支援組織  
 その他( ) \_\_\_\_\_


関わっているコミュニティカフェがあれば教えてください(どんな形のかかわり?) \_\_\_\_\_

このフォーラムに期待することはどんなことですか? \_\_\_\_\_


交流会参加について →  参加する  参加しない

お申し込みは、シェアリーカフェ (NPO法人I Love つづき事務局) まで  
tel&fax 045-306-9004 申し込みフォームからの申し込みできます!  
cafe@shairly.com goo.gl/nMhCSu

要事前申込み  
1/10～2/1 まで



# 横浜市内の コミュニティカフェ 紹介



YCCN 会員カフェと本事業関連の常設コミカフェを紹介するコーナーです。

青葉区	3丁目カフェ スペースナナ
旭区	ハートフル・ポート ふれあいわかば ほっとさこんやま
神奈川区	反町駅前ふれあいサロン
金沢区	さくら茶屋にししば ほっこり UDCN 並木ラボ
港南区	港南台タウンカフェ
港北区	大倉山おへそ 街カフェ大倉山ミエル
都筑区	いのちの木 シェアリーカフェ
鶴見区	KOTOBUKI
戸塚区	こまちカフェ コミュニティカフェ夢みん ふらっとステーション・とつか ふらっとステーション・ドリーム
保土ヶ谷区	ハッピースクエア
南区	コミュニティサロンおさん はまどま

## 3丁目カフェ

【青葉区】



運営	株式会社3丁目カフェ
所在地	横浜市青葉区美しが丘 1-10-1 ピースフルプレイス 1-B (東急田園都市線たまプラーザ駅徒歩4分)
開設	2014年(平成26年)8月
営業日	火曜日～金曜日:(ただし平日)10時～22時 土・日・祝:貸切専用 月曜日:定休日
スタッフ	有償常勤マネージャー1名、有償スタッフ15名(パートさん、シフト制)
特徴	<p>当初美しが丘3丁目の住宅街で高齢者を中心とした地域住民に、プレハブ程度の家屋で喫茶休憩と井戸端のスペースを提供する目的であったが、適当な空き地空気が無かったため、たまプラーザ駅前(美しが丘1丁目)の商業店舗を賃借して開店。横浜市・東急電鉄の次世代郊外まちづくり活動の1プロジェクト。</p> <p>主な目的は地域住民へ活動の「場を提供」することで、合わせて平日昼間(10:00~18:00)は喫茶営業としてノマド空間を提供し、平日夜間(18:00~22:00)はバー営業としてアミューズメント空間を提供している。土・日・祝はニーズの多い貸切空間として、パーティー、発表会、音楽ライブを行っている。</p> <p>特徴としては、グランドピアノ、各種音響・照明設備、100インチ映像設備、Wi-Fi。</p>

## スペースナナ

【青葉区】



運営	NPO法人スペースナナ
所在地	青葉区あざみ野 1-21-11 (田園都市線・横浜市営地下鉄あざみ野駅徒歩6分)
開設	2010年12月
営業日	月曜・火曜定休(土・日・祝日も営業)11:00～18:00
スタッフ	常勤0名、非常勤0名、有償ボランティア0名、ボランティア約20名
地域連携	商店会、市民活動団体、男女共同参画センターなど
まちの事務局機能	「地域でゆるやかにさえあう場をつくろう」をコンセプトに、社会的課題を共に考え、解決していけるようなコミュニティづくりをめざして、関心のある個人、団体などと連携をすすめている。
特徴	世代を超え、性別、国籍、障がいのあるなしに関わらず、多様な人々が出会い、つながりを持ち、元気になれる場所やゆるやかに支え合う仕組みをつくろうと、集った市民が開設。カフェの他に、ギャラリーやフェアトレードショップ機能を持ち、独自企画や市民の持ち込み企画を実施。ジェンダー、はたらく、教育、福祉、市民活動、セクシュアリティなどに関わる書籍の編集・出版を行う有限会社が事務所を置いている。



## ハートフル・ポート

【旭区】



運営	個人（五味真紀）
所在地	旭区南希望が丘 58（相鉄線希望が丘駅徒歩 10 分）
開設	2014 年 6 月
営業日	月・火・木・金 10:00～17:00
スタッフ	オーナー 1 名、非常勤 3 名、有償ボランティア 1 名、ボランティア 0 名
地域連携	直接連携している団体はないが、地域で活動している団体とのコラボレーションでイベントの企画、活動場所として利用・拡散をしてもらっている。地域の人達。NPO 法人活動ホームふたまたがわシュガーボット。地域包括支援センター。
まちの事務局機能	地域で高齢者の生活支援を行う「ちょこっと応援団」の事務局をオーナーが担う。活動の一環として定期的に利用してもらっている。地域で活動する他団体・人同士をつなげる働き。認知症の方の見守り・声掛け。
特徴	住宅街の 2 世帯住宅一軒家の一部を改装し、住み開きとしてカフェを運営。店主が培ってきた NPO・自治会・地区社協・行政・学校・文化サークル・教会関係など多様なネットワークをベースに、地域住民が口コミで利用を広げており、居場所的機能も有している。飲食提供・作業所製品等の物販の他、市民活動や地域情報のチラシ等の配布、テーマを決めたおしゃべり会や音楽コンサート開催など、住民が参加して楽しむだけではなく、地域の中にある人材を活かして、住民自らが活躍できる場、文化的な発信ができる場にもなっている。「家」という環境で、多世代近居型の交流・学びの場づくりを大切にしている。

## ふれあいわかば

【旭区】



運営	認定 NPO 法人 若葉台
所在地	横浜市旭区若葉台 3-5-1（若葉台団地ショッピングセンター内）
開設	2010 年 10 月
営業日	月～金 10:00～18:00
スタッフ	常勤 0 名、非常勤 0 名、有償ボランティア 2 名、ボランティア約 20 名
地域連携	住宅管理組合協議会や連合自治会、県公社、まちづくりセンター、学校等
まちの事務局機能	地域多世代交流拠点、高齢者等買い物サービス事業、住民主体の生活支援、見守り
特徴	高齢化が進む団地の中で、地区社協が中心になり、高齢・障害・子育てと、特別な支援を必要とする人向けの福祉事業を検討、事業主体として NPO 法人を設立した。「ふれあいわかば」は、安否確認と交流を目的に横浜市高齢在宅支援課事業として開設。「日本茶と笑顔のおもてなしと傾聴」をキャッチフレーズに、お茶を無料提供。地区ボランティアセンターとして「ニーズとボランティアのマッチング」「気軽な相談」「交流」3つの機能の他、高齢者等買い物支援サービス事業、生活支援の窓口にもなっている。



# ほっとさこんやま

【旭区】



運営	NPO 法人オールさこんやま
所在地	横浜市旭区左近山 1-31-101 (左近山団地左近山 ショッピングセンター内)
開設	2014 年 4 月
営業日	月～土 9:00～18:00
スタッフ	常勤 0 名、非常勤 9 名、ボランティア 10 名
地域連携	住宅管理組合、連合自治会、地区社会福祉協議会、商店会、老人会、医療法人、ケアプラザ、都市再生機構、行政
まちの事務局機能	地区社協の生活支援「社協ケアシステム」加入受付窓口
特徴	高齢化率 40% の大規模団地内の商店街空き店舗に開設された地域福祉交流拠点。運営する NPO 法人は、左近山連合自治会を中心に、社協、民生委員、老人会、住宅管理組合、ケアプラザ、医療法人、商店会が集まって立ち上げた。高齢者、子育て世帯などの多世代交流、地域全体が支えあえるつながりづくりを目指す。高齢者が引きこもらずに元気に過ごせる場所として、安価で飲食を提供している。現在小学生対象の日曜ほっと(昔遊び)、小中学生への学習支援の実施また高齢者の移動支援を検討中

# 反町駅前ふれあいサロン

【神奈川区】



運営	反町駅前ふれあいサロン運営委員会
所在地	東急東横線反町駅前 改札口から徒歩 0 分
開設	平成 22 年 4 月 13 日
営業日	月曜日から金曜日 10時半から 5時半会議室利用は夜 9 時まで土日も可能
スタッフ	神奈川区障害者地域作業所連絡会からスタッフ 1 名メンバーさん数名 3 時には帰るステーションボランティア午前 1 人午後 2 人
地域連携	運営委員会に町内会・自治会 商店街が加わっている東横フラワー緑道運営管理委員会やフェスタ実行委員会などと連携
まちの事務局機能	運営委員会に区役所区社協も一緒に多様な活動を繋げる拠点として運営
特徴	障害のあるメンバーさんが運営に関わっている。彼らの居場所にもなっている。スタッフに加えステーションのボランティアと一緒に運営しているのが大きな特徴。駅前なので利用者利用の仕方も多様

## さくら茶屋にししば

【金沢区】



運営	NPO法人さくら茶屋にししば
所在地	金沢区西柴 3-17-6 (京浜急行金沢文庫駅徒歩 15 分)
開設	2010 年 5 月
営業日	さくら茶屋 (日曜のみ休日) 11:00 ~ 17:00 カフェ (土日祝日休業) 10:00 ~ 17:30
スタッフ	常勤 0 名、非常勤・事務局 8 名、(有償) ボランティア 80 名 (時間当たり 50 円)
地域連携	西柴商店街、金沢区役所活動センター&湘南八景ほっこり (つながり STA) 認知症カフェ問題で、自治会役員・地域ケアセンター・社協・民生委員など
まちの事務局機能	特に無し

### 特徴

少子高齢化が進む西柴団地で「西柴団地を愛する会」を発足させ、商店街の空き店舗を活用して地域住民が世代を超えて交流できる拠点作りを、まち普請事業に応募して開設。一年半後に運営組織をNPO法人とした。事業内容は開店前に団地住民に行ったアンケート内容に応える形で展開し、コミュニティカフェ、朝塾、介護サロン 買物支援、西柴夜話、支え合いサロン、レンタルボックス、子どもイベント、健康維持活動などを行う。3年後には並びの空き店舗に2か所目の拠点、さくらカフェを開店した。

## ほっこり

【金沢区】



運営	湘南八景自治会
所在地	金沢区東朝比奈 2-2-32 (京急線六浦駅徒歩 18 分、又は金沢八景駅から京急バス 15 分)
開設	2012 年 6 月
営業日	火、水、木、金、土 10:00 ~ 15:00
スタッフ	常勤 0 名、非常勤 0 名、有償ボランティア 18 名
地域連携	地域ケアプラザ、さくら茶屋、区役所、社会福祉協議会
まちの事務局機能	特になし

### 特徴

地域の高齢化の進展に伴い、住民同士による助け合いシステムの必要性和阪神淡路大震災を機に独居高齢者等の見守りの必要性から、2度の住民アンケートを経て、自治会内の助け合いと見守りの仕組みと住民交流の場のニーズが見えた。自治会が、マンション1Fの店舗を購入し、まち普請制度を活用してカフェを開店。ボランティア組織「お助けマン」の事務局機能も果たしている。店舗内に乳幼児親子のスペースを設置し、多様な世代が集う場となっている。2013年より金沢区民活動支援センターランチ「つながりステーション」として、さくら茶屋、区役所と連携して、生涯学習に関する情報提供、相談などを実施。



## UDCN 並木ラボ

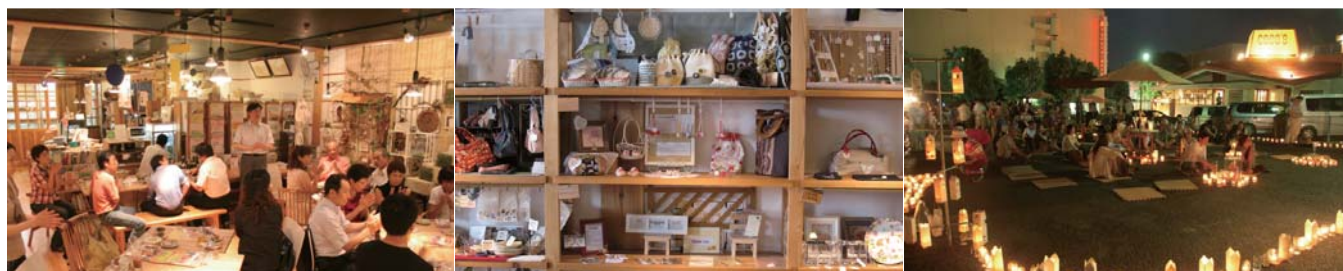
【金沢区】



運営	横浜国立大学
所在地	金沢区並木 1-17 (京急線富岡駅徒歩 14 分、シーサイドライン並木北駅徒歩 7 分)
開設	2014 年 3 月
営業日	不定期 (原則、平日・土曜日 10:00 ~ 20:00 をコマ割で open)
スタッフ	駐留担当教職員 4 名、駐留担当学生約 15 名、駐留地元スタッフ 2 ~ 3 名
地域連携	連携・協力団体：地元地縁組織、地元 NPO、名店会、各種地区施設、区役所、市役所、UR、住宅供給公社等
まちの事務局機能	地域連携を意識しながら、各団体や、活動をつなげる場づくり。
特徴	<p>地域再生・活性化の核となる大学を支援する文科省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」で、横浜国立大学が「環境未来都市構想推進を目的とした地域人材開発・拠点づくり事業」として、学生と地域をつなぐまちづくり拠点として開設。超高齢化社会への対応など全国に先駆けたモデルとなるまちづくりを研究実践する。</p> <p>公開授業や健康講座、潜在的ニーズや課題の掘り起こしとそれに関する実践的調査研究の拠点として大学が活用するだけでなく、地域住民の持ち込み企画イベントやコミュニティカフェの社会実験運営、地元と共催での学生提案イベント企画なども実施。</p>

## 港南台タウンカフェ

【港南区】



運営	株式会社イータウン (まちづくりフォーラム港南、横浜港南台商店会との連携)
所在地	港南区港南台 4-17-22-2F (JR 港南台駅徒歩 2 分)
開設	2005 年 10 月
営業日	平日・土曜日 10:00 ~ 18:00
スタッフ	常勤 0 名、非常勤 6 名、有償ボランティア 1 名、ボランティア約 10 名
地域連携	連携団体：株式会社と NPO と商店会の協働スタイル、他約 6 団体、協力団体：約 20 団体
まちの事務局機能	<p>・横浜港南台商店会事務局 (2005-) / キャンドルナイト in 港南台事務局 (2006-) / 港南区民活動支援センターランチ (2008-) / 港南台まちある隊事務局 / ふ〜のん編集委員会事務局 / 横浜市地域経済元気づくり事業 (2008-2009)</p>
特徴	<p>「cafe から始まるおもしろまちづくり」をテーマに、県産材を活用したカフェサロンで小箱ショップやプチ教室、地域交流イベント、地域情報誌ふ〜のんや地域情報サイト e-town の企画運営等を行う。学生や地域の主婦、小箱ショップオーナー、地元若手店主らが主体的に関われる仕掛けづくりの実践を行う。2008 年より港南区民活動支援センターランチとして、港南台地域元気フォーラムやキャンドルナイトなど地域連携相互支援を実践。</p>

# 大倉山おへそ

【港北区】



運営	大倉山おへそ
所在地	港北区大倉山 2-5-11 (東急東横線大倉山駅徒歩4分)
開設	2014年1月
営業日	平日・土曜日 10:00～16:00 (土日祝日は基本的には閉館)
スタッフ	常勤0名、非常勤0名、有償ボランティア15名、ボランティア約0名
地域連携	エルム通り商店会、街カフェ大倉山ミエル
まちの事務局機能	商店会や、地域情報に関する「情報拠点」として機能。様々な活動のチラシ設置や、FBでの情報発信などを実施。
特徴	ヨコハマ市民まち普請事業を活用し、地域住民と商店会、町内会が連携して開設したまちの拠点。商店会・大倉山地域のインフォメーションセンターであり、スペースレンタル運営、商店会イベントの企画運営としても機能している。「おへそ」は、大倉山の人と縁(えん)をソーシャルで結ぶ、の頭文字。「地域商業自立促進事業」の採択を受け、グローバルプロジェクトと称し、特徴あるまちづくりを目指している。

# 街カフェ大倉山ミエル

【港北区】



運営	NPO法人街カフェ大倉山ミエル
所在地	港北区大倉山 7-3-3 (東急東横線大倉山駅徒歩17分・地下鉄新羽駅徒歩12分)
開設	2010年11月カフェ開設 2011年12月NPO法人化
営業日	ギャラリーカフェ・夢うさぎ内レンタルスペースを利用 月、火、水、木 10:00～17:00
スタッフ	常勤1名(カフェオーナー) 非常勤1名、有償ボランティア10名、ボランティア約10名
地域連携	エルム通り商店会、大倉山おへそ、NPO法人ハッピーマザーミュージック 熊野の森もろおかスタイル、区役所、社会福祉協議会
まちの事務局機能	地域連携を意識しながら、各団体や、活動をつなげる場づくりと情報発信 大倉山夢まちづくり実行委員会、東急東横線各駅停車の会などに参加、
特徴	2010年11月 横浜商建連携事業の大倉山はちみつプロジェクトのアンテナショップとして、「街カフェ大倉山ミエル」が商店会空き店舗に開店。カフェ、ボックスショップ、講座の3本立てで地域に開かれた、敷居の低い交流の場を作る。その後、「大倉山おへそ」がオープン。同時に、空き家を活用した、「まめどスペース結」の運営協力の伴い、カフェを「結」内に移転。2016年12月「結」内のカフェレンタルの中止に伴い、2016年からは、カフェを住み開きのサロン「ギャラリーカフェ・夢うさぎ」内に移転。週4回のカフェランチを始める。空き店舗⇒空き家(空きスペース)⇒住み開きのシェアカフェ、と移転と運営の実践を繰り返しながら、活発な市民活動がある地元の特性を生かして、地域情報の発信、新たな活動、連携を進めている。



## いのちの木

【都筑区】



運営	NPO 法人五つのパン
所在地	横浜市都筑区仲町台 1-32-21 (横浜市営地下鉄仲町台駅徒歩 3 分)
開設	2011 年 12 月
営業日	月～金 10:30~17:00
スタッフ	常勤 1 名、非常勤 1 名、有償ボランティア 2 名、ボランティア約 2 名
地域連携	葛が谷地域ケアプラザ、仲町台地区センター、港北ニュータウン聖書バプテスト教会、行政書士、併設しているヘルパーステーションと共に、弱さや障がいを持つ方々の全人的な必要に応えるネットワークづくりを目指しています。
まちの事務局機能	
特徴	「多世代ものづくり交流カフェ」として、布小物・ミシン ワークショップ、編み物と本づくりのプログラムが行われている。編み物サークルの参加者の中から、プロとして独自ブランドの立ち上げや、障害者の仕事づくりにも取り組む。徒歩圏に地域活動支援センター「マローンおばさんの部屋」も運営しており、「いのちの木」は、一人ひとりの特性に合わせて、企業と連携した福祉的なプログラムを生み出している。また、「やさしい絵本で街づくり」をテーマに地区センターと連携をして絵本づくりを推進し高齢者の役割を見出すことや障がい者の仕事につなげている。

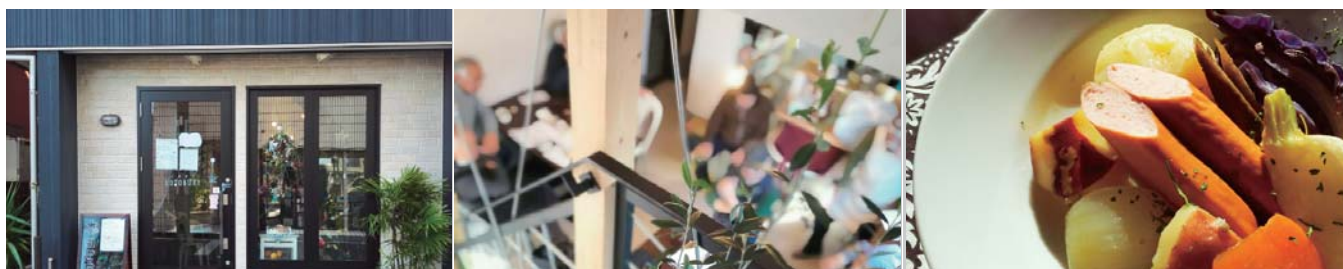
## シェアリーカフェ

【都筑区】



運営	NPO 法人 I Love つづき
所在地	都筑区中川 1-4-107 (横浜市営地下鉄線中川駅徒歩 3 分ハウスクエア横浜内)
開設	2014 年 11 月
営業日	10:00 ~ 18:00 水曜定休
スタッフ	常勤 10 名、非常勤 0 名、有償ボランティア 0 名、ボランティア約 0 名
地域連携	参加：中川ルネッサンスプロジェクト、中川の街の活性化のための意見交換会、都筑の文化夢スタジオ運営委員会他
まちの事務局機能	タウンセンター子育て地蔵まつり実行委員会事務局、中川駅前商業地区振興会広報担当
特徴	1999 年都筑区の生涯学習の勉強会から生まれ、2003 年に NPO 法人化。地域まちづくりのキャリアを持つ NPO「I Love つづき」が、「地域の活動を発展させるために、心地よくシェアできる空間を提供する」をテーマに、住宅展示場とコラボして開設。地場産野菜や調味料等にもこだわったメニューを提供。アルコールも出している。コピー機やプリンター、リソグラフ等もあり、シェア・オフィス、コワーキングスペースの機能も提供。福祉作業所で作られたものを数多く取り扱う「横濱良品館」の商品展示販売も行っている。

# コミュニティ&シェアスペース KOTOBUKI 【鶴見区】



運営	神道映利
所在地	横浜市鶴見区潮田町2-98 (JR鶴見駅/京急鶴見駅より徒歩13分)
開設	2016年11月
営業日	月曜～日曜 9時～22時 (予約状況による)
スタッフ	常勤1名、ボランティア2名
地域連携	現在なし
まちの事務局機能	現在なし
特徴	「リソース(趣味、技能、経験)を誰かのために役立てよう」をコンセプトに、自分の価値、存在意義の確認、社会貢献の第一歩を実現する場。1階はキッチン&カフェスペース(最大20席)。2階は12畳のフローリングスペース。共に貸出可。ここで開く講座や交流会を通じてJOYある暮らしを提供する。いずれ人材バンクのような会員化を図り、困っている人の“困った”を解消できる人とのマッチングで助け合いの輪をつくっていきたく考えている。

# こまちカフェ 【戸塚区】



運営	NPO法人こまちぷらす
所在地	戸塚区戸塚町145-6 奈良ビル2F (JR・横浜市営地下鉄戸塚駅西口徒歩7分)
開設	2014年5月(現店舗。初めての開店は2012年3月) 2013年4月法人化
営業日	平日・土曜 10:00～17:00 (定休日:日曜)
スタッフ	常勤3名、非常勤17名、有償ボランティア11名、パートナー59名、登録無償ボランティア46名
地域連携	NPO法人子育てネットワークゆめ、とつか駅前商店会、戸塚宿ほのぼの商和会、戸塚東口商店会、戸塚区役所、横浜市役所、子育て応援隊、ケアプラザ、区民活動センター、区社協、男女共同参画センター、戸塚認知症キャラバン・メイト、自治会、横浜市内外企業等
まちの事務局機能	多様なテーマのイベント(産前産後、学び、コミュニティ、障がい、ものづくり等)を通して、今まで交差しなかった人同士や団体同士をつなげる機能。商店会事務局も務めている。フューチャーセッションの開催や地域のコーディネーター育成事業にも取り組んでいる。また、官民住民で出産祝いをつくりその過程で地域の母親たちが抱える“孤”育ての課題を共有し、日常の中で支える仕組みを考えるプロジェクト(ウェルカムベビープロジェクト)の事務局をつとめるなど、まちづくりへの提言も行っている。
特徴	子育て中の母親が地域で働ける場、親子をはじめ、多様なまちの人が集える“ひろばカフェ”というコンセプト。地域の子育て情報を子育て当事者の目線で発信するNPOが運営。他コミカフェでの週1カフェ等、移転を重ねながらネットワークを広げ、2014年まち普請事業活用で現在の店舗を開店。アレルギーにも配慮した食事・喫茶の提供の他、手づくり雑貨の小箱ショップ、会議室、ワークショップ、レンタルキッチンなども有する。



# コミュニティカフェ夢みん

【戸塚区】



運営	NPO 法人 いこいの家 夢みん
所在地	戸塚区俣野町 1404-6 (JR 大船駅・JR 横浜市営地下鉄戸塚駅からバス「ドリームハイツ行」集会所前バス停)
開設	1996年4月
営業日	月曜～土曜 10:00～16:00 日曜 (月1回)
スタッフ	常勤0名、非常勤8名、有償ボランティア20名、ボランティア約50名
地域連携	自治会、深谷台地域運営協議会、福祉連絡会、介護福祉関係機関、区役所、区社協、地域ケアプラザ、小学校、俣野公園プレイパーク、地域作業所
まちの事務局機能	地域運営協議会の中で事務局担当
特徴	「人と人がつながり誰もが生き生きと過ごせる居場所を地域の皆さんとともに創っていく」という法人理念のもと、多世代交流サロンを運営。交流、趣味、健康、学びなどの曜日別介護予防プログラムを柱に、子ども将棋やおもちゃ広場など子供向けプログラム、オレンジサロンや介護者のつどい、地域向け講座などの認知症対策にも取り組んでいる。28年度からは住民同士の助け合い活動「ボランティアバンク・えん」29年度からは食事サービス「ドリーム地域食の会」と統合し、地域の高齢化による課題解決に向けて活動を広げている。担い手のほとんどが近隣地域の高齢者により運営されていて、自らの介護予防にもつながっている。

# ふらっとステーション・とつか

【戸塚区】



運営	NPO法人くみんネットワークとつか
所在地	戸塚区吉田町 104-1 (JR・横浜市営地下鉄戸塚駅徒歩3分)
開設	2014年3月
営業日	木曜定休 (土・日・祝日も営業) 10:00～17:00
スタッフ	常勤0名、非常勤0名、有償ボランティア40名、ボランティア約40名
地域連携	NPO・NGO 活動団体、地域活動団体、街の商店、近隣町内会、地域公的機関、大学ボランティアセンター、とつか区民活動センター、市内企業など
まちの事務局機能	地域の人、団体、活動などをつなげるまちの応援団としての機能 市民活動、地域活動、生涯学習活動、ボランティア活動などのコーディネート機能。 地域課題解決型としての子育て応援、シニア応援機能。
特徴	ふらっと自由に立寄り、子ども、学生、子育て中のママ、おとな、お年寄り、在学・在勤の方など、地域に関わる様々な人が集い、出会いがある『みんなの居場所』というコンセプトで、分譲マンション1Fに開設された地域の活動拠点。市有地売却にあたり行われた「公民連携による課題解決型公募モデル事業」で、三菱地所レジデンス(株)の地域交流拠点を有する集合住宅プランが採択された。拠点は地元NPO「くみんネットワークとつか」が担い、多数のボランティア協力により運営がなされている。

# ふらっとステーション・ドリーム

【戸塚区】



運営	NPO 法人 ふらっとステーション・ドリーム
所在地	戸塚区深谷町 1411-5 (JR 大船駅・JR 戸塚駅 市営地下鉄戸塚駅からバス約 25 分。バス停徒歩 5 分)
開設	2005 年 12 月
営業日	平日・土曜 10 時～ 17 時 日曜 12 時～ 17 時 祭日休み
スタッフ	有償ボランティア約 40 名
地域連携	深谷台地域運営協議会
まちの事務局機能	深谷台地域運営協議会の事務局機能をふれあいドリーム・夢みんが担っている
特徴	地域で誰もが生き生きと心豊かに過ごしていくことを実現するための皆の交流の場・居場所 サロン・マイショップ 情報・相談コーナー 見守り活動 各種イベント 講座 食を中心としたサロンがメイン活動、年間 15,000 名を超える利用者で賑わっている。

# ハッピースクエア

【保土ヶ谷区】



運営	NPO 法人 リロード
所在地	横浜市保土ヶ谷区天王町 1-30-17 (相鉄線天王町駅徒歩)
開設	2007 年 10 月
営業日	営業日：火曜日～土曜日 12:00～19:00 (日曜日・国民の祝日・年末年始は休業)
スタッフ	常勤 1 名、非常勤 2 名、有償ボランティア 0 名、ボランティア 約 7 名
地域連携	保土ヶ谷区青少年指導員 民生児童委員 地域子育て拠点 地域サークル 保土ヶ谷区社会福祉協議会 NPO 法人きてん 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 (岩間市民プラザ) など
まちの事務局機能	特になし
特徴	地域の中高生の居場所機能が中心で、地域の子育て中のママ+乳幼児～高齢者施設の利用者+スタッフと幅の広い地域の方の寄り場ともなっていて、「共に過ごし、友に学ぶ場/地域で中高生が育つ場」となるコーディネートを行なっている。行政の補助事業であるが、登録制は採らず、地域の居場所の中で中高生が育つ形を目指している。また、居場所で付き合いの生まれた中高生たちの、地域での出番を創出し、活動していくことにも取り組んでいる。



## コミュニティサロンおさん

【南区】



運営	社会福祉法人たすけあいゆい
所在地	南区南吉田町2-17
開設	2012年5月
営業日	平日 10:00～20:00
スタッフ	常勤1名（兼務）、非常勤3名、ボランティア9名
地域連携	地元連合町内会等による運営委員会を設置予定
まちの事務局機能	特になし
特徴	商店街の一角にある空き店舗を活用したコミュニティカフェ機能として、地元団体との懇談会から浮かび上がったニーズである、高齢者や障害者を問わない居場所機能、とくに子どもの居場所になるようにとの願いを受け、徐々に事業内容を広げている。横浜市と連携し、家庭環境等に何らかの困難を抱える子どもを主な対象とした居場所づくりについて「社会的インパクト評価モデル事業」を2016年10月末から開始し、夕食の提供、学習支援の提供を行っている。

## はまどま

【南区】



運営	NPO法人よこはま里山研究所（NORA）
所在地	南区宿町2-40 大和ビル119（京急線南太田駅徒歩7分・市営地下鉄蒔田駅徒歩3分）
開設	2008年6月
営業日	不定期（開催イベントに準じる）
スタッフ	常勤1名、非常勤1名、有償ボランティア0名、ボランティア18名
地域連携	宮宿花一・二丁目町内会、蒔田公園愛護会、まいたエコサロンの会、フォーラム南太田、大岡川アートプロジェクト実行委員会、伊勢佐木町商店街エコ商店街委員会、NPO法人みなみ区民利用施設協会、タウンニュース南区編集室、そのほか市民活動団体など
まちの事務局機能	地元町内会の一員として、地域活動の広報やイベント等の企画・調整をお手伝いしている。一方で市内の環境系市民団体の中間支援、各種相談・コンサルティング等もおこなっている
特徴	法人事務所として借用していたスペースを、「街なかの里山の入口」として地域や社会に開き、人と里山をつなぐ居場所「はまどま」（横浜の土間の意味）として2～3日に1回の頻度で各種イベントを開催している。神奈川野菜の食事会や野菜市、発酵食や保全食づくり、竹細工などの手仕事、食事付きの映画上映会やサロンなどのほか、適宜、会員提案型の企画を実施。里山の恵みを分かち合い、この場に集う人びとの経験や技をいかした場づくりをおこなっている。「はまどま」は、ムラの寄り合い処・作業場という位置づけで、ここからヤマやノラに出かけて「里山とかかわる暮らしを」実践しようと都市的な里山暮らしを提案している。

コミュニティカフェ  
カフェ型中間支援機能



Report

カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及  
横浜市市民活動支援センター自主事業 2016 年度報告書

発行者：横浜コミュニティカフェネットワーク  
横浜市港南区港南台 4-17-22-2F 港南台タウンカフェ内  
TEL：045-832-3855 FAX：045-832-3864

発行：2017 年 2 月